

3 単純集計表（職員）

I 平成 12（2000）年 12 月につくられた『川崎市子どもの権利に関する条例』についてお聞きします。

Q 1 川崎市子どもの権利に関する条例を知っていますか。（○は 1 つ）

	件数	%
1 名前も内容も知っている	262	71.0
2 名前だけ知っている	75	20.3
3 知らない	30	8.1
無回答	2	0.5
合計	369	100.0

Q 2 川崎市子どもの権利に関する条例ををふだんどのような方法で見たり聞いたりしますか。（あてはまるものすべてに○）

	件数	%
1 職場内の研修・会議など	262	77.5
2 職場以外の講座や学習会、研修会など	84	24.9
3 パンフレット	176	52.1
4 川崎市ホームページ	74	21.9
5 ポスター	77	22.8
6 ちらし	51	15.1
7 新聞、テレビなど	14	4.1
8 その他	10	3.0
(無回答=1、N=338)		

【その他】

- ・前から知っている
- ・以前学校現場で研修・実施
- ・保育士試験で使用した資料・テキスト
- ・子どもが学校から持ち帰ってくる
- ・授業準備と実施
- ・イントラネットシステム上の e-ラーニング
- ・書籍・インターネット
- ・こども夢パークの入口
- ・イベント
- ・教材研究
- ・地域への市からの配布物

Q 3 7つの子どもの権利のうち、子どもにとって大切だと思う権利を 1 つ選んでください。また、その理由を教えてください。

	件数	%
1 安心して生きる権利	254	68.8
2 ありのままの自分でいる権利	52	14.1
3 自分を守り、守られる権利	22	6.0
4 自分を豊かにし、力づけられる権利	6	1.6
5 自分で決める権利	15	4.1
6 参加する権利	4	1.1
7 個別の必要に応じて支援を受ける権利	12	3.3
無回答	4	1.1
合計	369	100.0

【選んだ理由】

1 安心して生きる権利

- ・安心して生活できることが基盤となり成長することができると考えているため（他 56 件）
- ・安心が基盤となって他の権利にも繋がっていくと思ったから。安心することでありのままの自分でいれたり、決めたり、豊かになったり、自分を守ろうとしたりしていくことに繋がっていくと感じた（他 47 件）
- ・この世に生を受けて 1 番守られ基となるものであり、全ての子どものがそうでなければならぬ当然の事だから（他 26 件）
- ・子どもにとって安心であること、安全であることがまず第一と考えるから（他 22 件）
- ・人が生きる根底として、愛され、大切に育てられることが最も大切であり、大前提なことだと思うから（他 15 件）
- ・7つどれも大切な権利ではあるが、どんな環境にいる子どもであっても、まずは周囲の愛情を受けながら安心して生きられるようになってほしいと考えるから（14 件）
- ・「生きている」ということが大前提のもので「命」が最優先されるべきものとするから（他 10 件）

- ・基本的人権の尊重だと思うので
- ・毎日の生活
- ・子どもは親の愛情いっぱいのもとで育てられるそれが一番幸せである
- ・大切にされるべき存在だから
- ・この権利が一番大切だと感じます。知識・経験が少ない子ども達を、周囲の大人達が暖かく見守っていき生きる力を身につけていくことが、大切であると感じます
- ・すべての子どもに健やかに成長する権利があると思うから
- ・子どもが安心して生きることができるようにすることが大人の役目でもあるから
- ・子どもが安心して生きていけることが、その子の次の世代にとっても重要なことだと思う。安心して生活していけることで、子どもの心が安定し様々な事象に対してもいい影響を与えたいと思います
- ・子どもにとって、安心できる大人がいること、安心した環境で生活できることの基本が備わっていないと、何をやっても意味がないと考えるから
- ・安心感をもって生活することで、いつも笑顔で過ごすことができる
- ・安心感があってこそ、子どもは自分らしさを発揮し、自分の力を伸ばし、物事を自分で考えて決断することができる
- ・様々な子どもがいる中で、誰かと比べることなく自分は自分として生きていってほしいから
- ・家庭環境や様々な理由から、心身ともに安全を確保できない子どもがいるから
- ・定時制で教えていますが 劣悪な家庭環境の生徒が 多く見受けられるからです
- ・政治や地球環境の悪化から、子供の生命が脅かされることが多くなったから
- ・虐待や、貧困など無く、まずは安心して生活できる環境で生きること、人は初めて周りに目が向き、自己実現にをしたいと思うようになるから
- ・保護者が保護者たる義務を果たしていない家庭が増えていると感じるから
- ・すべての子どもに当てはまることで、ほかのすべての権利が保証されたとき、安心して生きている実感がわくものだと思うから
- ・幼い頃にどのような生活を送るかは、将来を見据えた上で1番重要であると思うから
- ・挑戦することで成長することができると考えており、安心できる環境があることで様々なことに挑戦する原動力になるから
- ・心身の居場所が安定している児童は、精神的な落ち着きや成長が見込まれるため
- ・親からの虐待を受けることも、友達からのいじめを受けることもあってはならないことで、安心して生きることが一番大切だと思うから
- ・子どもファーストの為にも絶対守られなければならない内容の為
- ・人間の健やかな心と体の成長には自身が安心して過ごせる環境がとても大切だと思うから
- ・虐待や貧困など子どもに非がない場合が多く、2次被害に遭わないためにも安心して生きていくことが大切だと思います ・家庭環境が複雑になり、安心して毎日を過ごせない子どもが増えているから
- ・一人一人が自分を大切に生きてするために、差別をされることなく安心して生活できることが大切だと感じるため
- ・安心して生活できることで様々なことに挑戦したり、やりたいことを見つけられると思うから。安心して心穏やかに生活することが良いことだと思うからです
- ・家庭でも学校でも安心してこそその学習であるから
- ・成長過程の子どもにはまだまだ弱い部分があり、大人が守っていかねばならないところがある。立場も弱い子どもたちが社会の中で安心して生きていくことは絶対条件であると考えます
- ・子どもにとって、安心できる場所、安心できる人をひっくるめた、安心できる環境を用意する事により、子どもの心を安定させ生活をしていけると思います
- ・学校生活でも家庭生活でも、基盤になるから
- ・学習をするにしても、適切な支援を受けるにしても、安全・安心な生活の元自己を形成していくことが人間らしく生きる上での基本であると思うから
- ・親がいて寝床がある、安心安全な場所での生活が最低限必要だと思う
- ・衣食住を基本に、周りの大人に守られながら、健やかに成長してほしいと思うから
- ・子どもは自分だけではまだ生活ができません。彼らが自立するまで安心して生活できる環境を与えるのが最低限の大人と社会が果たすべき役割だからです
- ・すべての子どもが平等に、生活できる環境であって欲しい
- ・子ども一人ひとりひとりが大切にされていることを実感しながら生きていくことが最重要だよと思うから
- ・子どもは、大人が守るべき存在です。何より、優先されるべき権利だと思います
- ・児童養護施設に入所している子どもたちは様々な理由で親からの愛情を感じずらいため、権利として保障されていることを感じてほしい

2 ありのままの自分での権利

- ・ありのままの自分ではいられないためには、他の6つの権利も必要になってくるので、全て含まれると思うから。そして1番叶えるのが難しいと思うから（他2件）
- ・安心してありのままの自分を出して生活できる環境があることが大事だと思うから（他2件）

- ・自分らしくいることそれを保障することが、生きていく上で大切だと考えるから（他1件）
- ・それぞれの個性があるので、否定されず自分の個性を活かして生きていける環境が大切だと思うからです（他1件）
- ・幼少期から児童・青年期を経て大人なっても自分自身でありつづけることが生きることだから
- ・自分自身を大切にできることで、他者への思いやりも育まれると思う
- ・その子の個性だから
- ・子どもにも様々な個性があり、これからの社会は個性が尊重されるべきであると考えするため
- ・インターネットにふりまわされ自分を見失っているから
- ・今の政治、国の状況で考えざるを得ないから。
- ・それぞれの自己肯定感を育てることで安心するし色々決めることができたり、自分も他者も守ることにつながると思うから
- ・人にはそれぞれ個性があり、ありのままの自分でいられることが大切だと思うため
- ・背伸びをしなくても今のありのままがいいということを伝えたい
- ・それぞれの個性を大切に育ってほしい
- ・偽りの自分では生きていくのがしんどくなってしまふから
- ・保護者が子どものことを決めつけるような場面をみるが、自分がしたいことをできることが大切であると感じるから
- ・みんな一緒という考えな世の中だが、今の子どもたちにありのままがいいと胸を張って生きてもらいたい
- ・家庭環境や、それ以外の外的要因によって、ありのままに生きることの難しさを感じている子ども達の姿をよく見るため
- ・自分の個性を大切にできる、他人の個性も認められる社会になっていくと良い
- ・未だに差別や偏見が多い国だと思っているので、ちゃんと自分自身を認めてあげることができて、自信を持って自分らしく毎日を過ごしてほしいから
- ・多様性を認めていく時代において、最も重要であると感じるから
- ・子供を見ていると個性の尊重がない（個性が出てない、個性が生かされてない）様に思えます
- ・子どもの生活で1日のほとんどの時間を園で過ごしているため、安心できることが最も大切なことだと感じました
- ・一人一人特性があり、集団で過ごすことが苦手な子もいる。それぞれに良さがあり、大切にされるべきだと思う。休みながらも、前向きな考えを持ち続けることが大切だと思うので選んだ
- ・人はみんな違うから
- ・生まれてきたことがすでに素晴らしいので、【ありのまま】をみんなが大切にしていれば、真の平和につながると思うから
- ・人と違うという理由で何かを制限されてはいけないと思うから
- ・様々な家庭環境、個々の成長発達がある中で、他者と比較されずにその違いも認め合いながら自分は自分でいいんだと思える、思っているんだと感じていて欲しい。色んな子がいてそれが当たり前で生活を送れる場所が保育園でありたい
- ・個性を尊重してありのままの自分でいて欲しいから
- ・人と同じでないといけないという概念がまだ抜けきれていないように感じています。人と違っていい、自分の個性を尊重される場がもっと広がるといいなと思っています
- ・全ての根元に係る感情・考え方だと思うから
- ・子どもが明るく、子どもらしく生きることが守られるべきであり、大人が子どもを守っていく必要があると思うから
- ・個性を大切に受け止められることで、「自分は自分のままでいい」という自己肯定感へと繋がる。その気持ちを持つことで自分のことも周りのことも大切にできると思うから
- ・大人になるまでの成長過程の中で、自分の個性を受け入れる、受け入れてもらうことの大切さを知ることとはとても大切なことだと思う。周りとは違う意見を持つこと、誰かと一緒になくても大丈夫だということを知ることが子どものときに学んでいけば、大人になったときに心を広く持つことが出来ると思う
- ・一人一人の個性がとても大切だから
- ・聾学校職員としての立場から、聞こえないというありのままの姿を社会、学校、家庭全ての場面認めてもらえることが重要だと考えています
- ・自分を偽らず、ありのままにいられることが大切だと思うから
- ・ありのままにいられる事の気持ちの余裕が周りを大切にすることにも繋がると思います
- ・どんな子でもありのままの自分が受け入れられることが安心にもその子を守ることにもつながると思うから
- ・ありのままを受け入れてもらえるという安心感が、子どもの成長に大きく関わると思うから
- ・保健室利用者と話を聞く時に、他人に対して自分をさらけ出すことが出来ていないため、人間関係が上手に構築されていない生徒が多い
- ・心も体も休めるときがないと、こわれてしまうから
- ・個性を大切にしたいから
- ・そのまま、今のままで良いと感覚的にでもわかると、安心して過ごせ、自己肯定感が高まり、子どもの成長につながると思うので

3 自分を守り、守られる権利

- ・命が保障されることは最低限だが、もっとも大切なことだと思う（他1件）
- ・いじめ等で命がなくなるケースが絶えないため（他1件）
- ・井田子ども文化センターでは、「自分も楽しく、みんなも楽しく」が、キーワードです。自分を守り、みんなから、守られる
- ・相談できる環境があることで、安心して生活できる
- ・身体も精神的にも生存することが一番大切だから。人権を守るために根本である3番を選んだ
- ・何においても生命は大事であり、それを守られることは最低限の権利だと思うから
- ・不安定な子が多すぎ、大人が自分のことを優先しすぎている。子どもが大人に気を遣っていて可哀想
- ・親に判断されずに自分の意思で決めることが大切だと思うため
- ・命を守る為に必要だと思うので
- ・自分を守り、守られる事で、安心して生活したり、自分で決めたりなど、様々な権利にも繋がってくると感じるから
- ・自分が自分のことを1番守って大切にしようと思うから。また、様々な人から守られることも大切だと思うから
- ・まずは自分自身の生命を守り守られることが大切だから
- ・いじめや虐待など受けると一生の傷となってしまうため、生きていく中で親身になって相談など耳を傾けられる人が近くにいることで子どもが守られるため。いじめや虐待を受けたことを忘れることは出来ないトラウマになったり、人を信用出来なくなったりしてしまい対人関係の構築が難しくなることもあるため
- ・しっかりと自分の心身が守られることで、他の権利にも繋がると思う
- ・情報に惑わされないためにも、自分を守ることが大切だと思う
- ・様々な人間関係を構築していく過程で、自分を守り守られることを今の子供たちが知ることは大切だと思う
- ・どの権利も子どもだけでなく、人として持つ権利だと思うが、自分ではまだ守り切れない子どもにとっては、③は大切な権利だと思う
- ・普段良くうける相談に関する権利のため

4 自分を豊かにし、力づけられる権利

- ・遊んだり学んだり活動したりする中で、成長や自信につながるように励まされ、力づけられることで自己肯定感が高まるから
- ・4があればその他の権利も持てるから
- ・大人によって経験する機会が減り子どもたちの生活に必要な物事や挑戦する力があまりなく成長する機会を奪ってしまっている
- ・生まれた家庭環境に関わらず、多くの社会的な体と学ぶ機会が保障されることが大切
- ・それぞれ人にはよいところがあり、それに気づき、他者と認め合い、高め合えるような環境で生活することが豊かな人間性を育むのだと考えます
- ・直接体験は実になるものだし、褒められることで発展していくと思うから

5 自分で決める権利

- ・1~7の中でレベル的には高い権利だと思っているが、自分が自分らしく生きていくためには自ら選択していくことが求められていると思う
- ・子どもも大人と対等な存在として物事を決めることが大切だと思うから
- ・自分の進む道、進んでいる道に、誇りを持ってほしい。そのためには自分で判断し、困ったときはサポートしてくれる大人の存在は大きいので
- ・自己選択自己決定できてこそ、安心して自分らしくいられるから
- ・子ども達がやりたいこと、知りたいことを自分で決められることは、自由に選択が出来、その分自由に成長出来ることにつながるから
- ・自己選択、自己決定が大切な内容だと思うので
- ・他の権利に関しては、地域の中で守られているように感じます。ただこの権利に関しては複雑かつ難しさがあるように思います
- ・年齢関係なく、自分で自分のことを決めるのは、様々な経験や体験につながっていくため
- ・1~3は家庭の土台、4~6が今の仕事として関わることが出来るかなど。大人の顔色伺いせず生きる力を身につけて欲しい
- ・自分でなにかを決めることが大切だと思うため。
- ・子どものためを考えて大人が決めてしまいがちな場面が多いが、本来であれば小さい年齢のうちから子どもの意見や考えを聞き、少しずつ自分で決められることを増やしていくことが大切だと思うから。
- ・子どもは一人の人間であり、誰かの所有物ではないと示されているため。親であれ、その子どもの生き方を強制してはいけない
- ・自分の人生の主体は自分だから

6 参加する権利

- ・障害のある子どもたちを考えると、参加することに制約がある場合があります。参加したいと考える人が、自由に参加できる社会になるのが大切だと思います
- ・参加の有無は自由。その中でどうするかを自分で決め、進めることは自分次第。色々な意見を聞いて自分が出るところを決めて参加すればいい
- ・自分の意見をもつ、意見を言い、仲間をつくることで協調性を学べるから
- ・障がいや理由に参加できないのは、間違っていると考えため

7 個別の必要に応じて支援を受ける権利

- ・今だに差別があるから ・親のエゴや体裁で支援が必要な児童が支援を受けられずにいるので
- ・人職差別など最近よく聞くため、どんな子でも平等に社会に参加する権利を守ってあげたい
- ・今学校現場において、予算等の都合で1番大切にすることができていないと思うから
- ・集団の中でだと難しさを抱えている児童が多い。個別に最適な支援を受けることが、子どもたちの学びの深まりや成長につながると考えるから
- ・これからの学校教育は、個が自分で学んだり、よりよく生きたりしていけるように、教師が個に応じた支援をしていく必要があるから
- ・子どもが一人の人間として、人間らしく生きるために必要な権利だと考えるから
- ・支援が必要な子どもが多く、個別の支援が必要だと感じるから
- ・昨今、外国にルーツのある生徒が増えてきて、日本語学習の壁に苦しんでいる。さまざまな手立て、国際教室やダイジェ教科書、ポケトークなどあるが圧倒的に支援が足りていない
- ・保護者の都合で、本人の意図とは違う生活をしている人が増えてきているように感じるから
- ・何かしらの障がいを持つ子が増えてきている中で、障がい児のサポート環境はまだまだ足りていないから

Q4 7つの子どもの権利のうち、守られていないと思う権利を1つ選んでください。
またその理由を教えてください。

	件数	%
1 安心して生きる権利	32	8.7
2 ありのままの自分でいる権利	38	10.3
3 自分を守り、守られる権利	50	13.6
4 自分を豊かにし、力づけられる権利	20	5.4
5 自分で決める権利	67	18.2
6 参加する権利	18	4.9
7 個別の必要に応じて支援を受ける権利	119	32.2
無回答	25	6.8
合計	369	100.0

【選んだ理由】

1 安心して生きる権利

- ・家庭的な問題を抱えている子が多すぎる（他1件）
- ・愛情不足の児童が多くなってきていることを日々の業務で実感しているため（他1件）
- ・全ての項目に共通するものと捉えますが、日本の社会に於いて「貧困」「ヤングケアラー」といった問題が危惧されています。「安心して生きる」の「安心」すら日々ままならない状況であると思われます。また実際に子ども自らが声を挙げることは少なく、周りが察知しなければ現状を掴みきれないことも大きな問題であり課題です。個人家庭が自ら解決できるものではなく、社会全体が目向ける事、待ったなしの問題と捉えます。実情が見えにくいものであるからこそ、一番懸念するものという認識から選択しました（他1件）
- ・仕事柄、虐待を受けている子を多々みている
- ・三食が食べられず子ども食堂で食事をしている
- ・あまりにも身勝手な保護者が多すぎます
- ・昔の、地域みんなで子供を育てていた時代とちがい、遊ぶ時にも場所や遊びにも制限があることが多いから。もっと大人たちが寛容になる必要があるのではないかな
- ・あらゆる差別からは守られていないと思うから
- ・1を付けましたが、守られていない項目がないとも言えないし全て守られてるとも言えると思います。本当に困っている子ども達は助けを求められるおとなが近くにいない事の方が多様な気がします。就学前の子どもは保育者の目がありますが、小学生以上の子どもたちはどうでしょうか。現状を私は把握してないのですが、気軽に相談出来る環境にいてほしいと思います

- ・普段子どもからの相談で、いじめや虐待の相談を聞くことが多いから
- ・虐待、いじめ、事故など、子どもの安全に関わることで事件、事故が絶えないから
- ・家庭環境等の観点から、平等にもっている権利になり得ていないためです
- ・家庭によっては守られていない
- ・児童虐待相談、通告が増加していることから
- ・昔に比べ安全に生活するということが難しくなった
- ・家庭で守られていない場合がある
- ・保護者や保育者の顔色を見て現す態度を変える様子を見ると、そのように感じます
- ・愛される権利はあるものの、必ずしも愛されていると感じる感じ方は人それぞれ違うから難しい
- ・保護者の都合で、本人の意図とは違う生活をしている人が増えてきているように感じるから
- ・学校現場にいと、家庭が子どもたちにとって安心できる場所になっていない生徒と対面する。その数が以前よりも増えてきていると思う
- ・家庭の中で心配なことが多い。学校でフォローしようとしてもできないことがある
- ・地域、家庭によってはこれが十分でない。そのような相談が実際に子供からある
- ・意味あいがとても広いので、考え方によっては守られていない部分もたくさんあると思うので
- ・親から丸ごとの自分を受け入れ愛されていない子どもを見かけるため
- ・不安な日々を過ごしていると思うから

2 ありのままの自分でいる権利

- ・場所によっては、理解があるところも増えてきてはいるが、まだまだ、他人と異なる事で差別や偏見を感じる場面もあるため（他3件）
- ・共働きが増え、父母ともに、余裕がない家庭が多い。子どもは長時間集団の中で過ごし、ぼんやりする時間や自由に過ごせる時間が減っている（他1件）
- ・「ありのままでもいい」という雰囲気は社会の中でも認められつつあるが、どうしても親や大人の思いや、周囲の目などが入りやすいから（他1件）
- ・人と同じでないといけなという概念がまだ抜けきれていないように感じています。人と違っていい、自分の個性を尊重される場がもっと広がるといいなと思っています（他1件）
- ・自由な思考がまだまだ抑えられているイメージ（他1件）
- ・まわりの体裁を気にしすぎる、また親のエゴで個性がなくなる
- ・現在の社会全体の課題でもありますが、ジェンダーの問題とどう向き合っていくか
- ・どうしても、人を横並びで見たり考えたりすることがまだまだ多い様に思います
- ・いわゆるアンコンシャスバイアスが根強く存在している現状がある
- ・担任が不在の時に入る職員が、子ども達に威圧的でいつもビクビクしている。その職員の顔色をうかがって動いている。笑顔がない
- ・場所によって、立ち位置を変えている子どもを見ているから
- ・個性の尊重がなされていない場面が多々見受けられるから
- ・いまだに古い考えをもつ大人が多いように感じる
- ・大人の社会の縮図だと思ふ子どもの世界でも、社会に適応できる能力のある人が尊重されがち。もっと多様な人がいることを認識して、自分とは違う考えだったり、環境で育つ人のことを考え、想像できる人が増えることを望む
- ・ありのままは大切なことではあるが、時と場合により我慢することも必要。人の迷惑にならないようにする指導も必要
- ・今の子どもたちは、家でも学校でもがんばっていて休んでいないように見えます
- ・いじめやからかい等をうけている児童がいるだろうから
- ・集団生活で悪目立ちすると責められがち、教育が画一的
- ・SNSを通じてヘイトスピーチや差別はますます増加していると思われるため。また多様性といいつつ、多様性に見反する意見について必要以上の批判や避難が見られるため
- ・ありのままではいられない子供もまだいると思うから
- ・日本社会は同調圧力が強いので、考え方の違いが認められない土壌があるのではと考えているから（他1件）
- ・多数派の人たちは認められるが少数派の人たちは受け入れられないことがある
- ・ありのままという表現が曖昧で。まず自分を理解すること。また、受け入れてもらえる環境があるの心配ため
- ・SNS等で情報のスピードが早く、秘密が守られない場面も多く見受けられる
- ・家庭の事情などで、ありのままの姿を家族（親や周りの人）から認めてもらえず、自己肯定感の低い子どもが多い気がする。それが不登校、ひきもこりにつながっているように感じる
- ・他の人と違うこと、友だちにどう思われているかをいつも気にしているから

3 自分を守り、守られる権利

- ・実際に虐待が増えてきているから（他6件）

- ・いじめなどが存在する（他4件）
- ・テレビやスマートフォンのニュースで多く目にするいじめ問題。この問題が無くなるのが本当にあるのかと日々感じられる程、いじめ問題で悲しいニュースが多く報じられていると思います。また、いじめだけではなく小さな子どもたちが両親からの虐待などで、天国に行ってしまうニュースも目にします。もっと未然に防げないか改めて改善策を作った方がいいと思う（他3件）
- ・子ども個々が置かれている環境によっては、守られていないと感じる（他1件）
- ・実際にはそのような子どもを目のあたりにした経験はないが、ニュースなどで聞く限り、大人の都合・勝手に子どものことが決められていることが多いように感じる（他1件）
- ・大人から子どもというよりは、子ども同士の間で守られていないことがあったり、家庭によっては暴力なども起きていることがニュースでも多く出ているため
- ・貧困問題やヤングケアラーの問題など抱える問題も多い
- ・様々な相談機関や体制が捉えられてはいるが、感情のコントロールが未熟な子ども達。ときに相手のメンタル侵害をしてしまったり、自分を守る方法がつかめなくなってしまう事もあるから
- ・本校ではあまり実感の無いことだが、他校との情報交換会で、親や親族の虐待で苦しんでいる生徒がいるとの報告をそれなりの頻度で聞くから
- ・環境や受け皿はあるが、実際に相談出来るのだろうか？と感じている
- ・SNSなどで、安易に誹謗中傷したりされたりすることが多くなったから
- ・一部ではあるが、子どもを放置したままで子どもに関心がない親、子どもが親の思い通りにならないと許さない親など、本来なら子どもを保護する立場なのに子どもを守れていない気がする
- ・全てを守るのは難しいから
- ・いじめは様々な姿かたちを持っていつでも子どもすぐそばにあり、自分を守る術を知らない。それを守るべき大人の意識が足りていない
- ・保護者や関わる大人によって、暴言暴力やネグレクトを受ける
- ・相談したくても相談できない環境になっていたり、意見をしても受け入れてもらえない環境の方が多い
- ・いつまでたってもいじめはなくならないし、虐待もあっても相談を受けたことがないからです
- ・学校生活ではいじめがなくならないから。いじめる側を教師が止められていないと思う。またいじめられている側が不登校になってしまったりと、心に大きな傷を残していると感じる。早期に発見し、いじめられている側が安全に学校で過ごせるように！
- ・親の管理下にあり、親の価値観で生きている子ども優先な世界ではない
- ・虐待により亡くなるケースがなくならないから
- ・まだこの問題はなかなか解決していないと思う。現に受けている子がどれくらいの発信をして、守ってもらえているのか。学校でもいじめがあるようだが、学校の先生は相手にしてくれないとも聞く
- ・イジメや虐待において本当に大変なのは逃げたり相談する事が出来ない子どもだと思います
- ・いじめなどに対して相談しても、それを認めてもらえなかったり、いじめた側が守られたりするような場面が多いので
- ・一番の加害者が一番身近な大人のことが多く、身近な存在に頼ることが難しい子が多いと思った
- ・お家での安全が守られていない家庭があったり、学校でも安心して生活できない子どももかなりいるから
- ・いじめも虐待も体罰もその定義が曖昧で、“どこからが”という線引きが難しいところがあること。また非常にセンシティブな問題で、恐らくそういう状況にあることには気づいていても、最初の一步を踏み込みきれないことが多いかな…と思うので
- ・自分から伝えづらい環境が多いのではと思った
- ・昨今増えてきている自ら発信しにくい状況におかれていることが多々ある
- ・いじめなどを相談できたとしてもなくならないこともあるから
- ・自分のことを話す相手がいないと考えるため

4 自分を豊かにし、カづけられる権利

- ・地域の公園など、〇〇遊びはダメ、保育園児が遊びに行くとうるさいからダメと言われてしまうことがあり、子どもの学びをせばめてしまっているように感じる（他3件）
- ・自分を豊かにするという事は、親の収入によって受けられない子どもも出てくるから（他1件）
- ・子供たちの自信や心の成長につながるような大人としての関わりができていないかわからないから（他1件）
- ・大人達が毎日の生活で十分に声をかけていけるのか大人が幸せでないとその余裕もありません。大人力、子ども力も必要です
- ・周知が進んでいないのか、生徒自身や保護者の自覚も低いように感じる
- ・環境の変化に対応できておらず情緒が不安定な子も見られるから
- ・課題に対する支援は多くあるが自分自身で力を付けられるようにする子ども自身の強みを引き出す支援はやってはいるが足りていないように感じる
- ・大人が子どもたちの成果を認め、励ましたり褒めたりするような声かけがまだまだ少ないと感じているから
- ・川崎市の子どもの自己肯定感が未だに低い傾向にあるから

- ・教育環境の充実に向けた整備をより行なってもらいたい
- ・成長や自信に繋げていく声かけや体験の積み重ねが難しい
- ・守られていないというわけではないが、あまり重視されていない
- ・学ぶ中で「できない」と苦戦する生徒をよく見かけ、自信を保てるように声かけをしてもやる気を失っていることが多いと感じるから

5 自分で決める権利

- ・自分のことは自分で決めるということをおとなが決めてしまって、自分で決めるようにしていない。(年れいや個人差もあると思いますが) (他 21 件)
- ・決定する機会が少なく感じるから (他 3 件)
- ・ことばが話せない子どもが自分で決めることは難しい。まだ年れいが小さい子は周りや自分の状況を大人と同じように理解できていない中で大切なことを決める難しさがある (他 2 件)
- ・自分で決められないこともあると思う (他 2 件)
- ・今の日本では、子どもが主張したことを、ありのまま受け入れてもらうのは難しい環境だと思う (他 2 件)
- ・「自分で自分のことを決めてもいい」と思っている子どもは少ないと思う (他 1 件)
- ・すべきことが多すぎる
- ・よかれと思う大人の発言で子供がふりまわされ自分で決めることができていない、と思う
- ・心配する気持ちから制限している部分が多いと思うから
- ・周りに合わせている姿をよく見るから
- ・つい、子どもだからと決められてしまうことが多いような気がする
- ・子どもの意見が反映されてないと思うから
- ・まだまだ社会の固定概念や仕組みとして、こどもが一生懸命考えた意見や気持ちよりも、ご両親や保護者の方の気持ちが優先されてしまう状況を目の当たりにすることが多いため
- ・教員の指示にしたがっていることが多いため
- ・どれも守られているが、「自分で決める」という強い意思をもっている子が減っている
- ・「こうあるべき」という呪いのような、人を縛る偏った思考に影響を受けて、本来の【自分】を失い、多くの意見をもとに決めるということが多くあるから
- ・自分のことを自分で決める上での前提となる情報が大人と圧倒的に差があり、その差が権利を妨げられる原因となる場合がある気がするため
- ・統計的なデータに基づいているわけではなく、教員としての肌感覚にすぎないが、子どもの成長やキャリア形成を考えていく上で過干渉あるいは関心の薄い親子が一部いるように感じられるから
- ・状況によっては、大人主導になることもあり、子ども自身が決めるには難しい場面もあるから
- ・行事や集団での活動があった時に参加してほしいと、声かけと一緒に参加するところを促してしまうことがあったり、どうしても縦割り保育になる時の部屋移動時にまだ遊びたい子に対して 1 人の保育士がつくことができなくて遊びを中断させてしまうことがあったから
- ・子どもの判断が間違ってしまったら、守りきることができなくなってしまう可能性がある
- ・自分で決めるということは他の要因が満たされていないとなかなかできないことだと思う
- ・障害があったり、乳幼児であったりする場合、自己表現が乏しかったり、未熟だったりすることが多い。そのような状況でも、できる限り子供が自己決定できるような取り組みや工夫が必要だが、実際どこまでできているのだろうか
- ・進路選択などで、保護者の意見等で強く自分の意思を主張できない生徒が多数見受けられる。一方で、まだ中学生なので、大人の意見が重視されるのも仕方がないと思われることもよくあると思う
- ・自分で決めるという事を理由に、学校を平気で休んだり、ルールを破る事がある。権利を盾にしてやりたい様にやる子がいる
- ・家庭環境や環境要因によって、自分で決めることができない子もいるため
- ・時間などに余裕がない場合に保育者側の意見で決めてしまい、子どもに決めてもらうことがない。くつなども「じぶんで!」とするが、大人が手を出してしまうことが多いように感じる ・大人の過干渉が気になります
- ・なかなか”自分のことを自分で決める”という場面が設定されていない。大人の事情でアドバイスしてしまうことも多いと感じるから
- ・様々なメディアによる正しくない情報が入ってしまうことが多くなっている

6 参加する権利

- ・そもそも、そういう場が少ないと思います (他 3 件)
- ・自分で選択していく経験がないと、6 に向かいづらいと考えたので…
- ・社会は大人によって作られていることが多い。子どものための施策はあとまわしになりがち。(票にならないから?)
- ・こどもの今後を決める会議にこどもが参加していないことが多いため
- ・参加に制約がかかる場面があるため。障がいのある子どもが、学校の選択をしていく際に障害の程度や地域性で所属する学校を教育委員会が決めてしまうのは、問題があるように感じます

- ・大人の都合で政治や経済などは構成されていると感じるから
- ・自分の意思だけでは活動が不可能
- ・学校の授業はみんな参加しないといけないから
- ・年長クラスになると行事や活動の際に話し合うことが多く、3、4才児から少しずつ取り入れている。自分の意見を言うことが苦手な子にも聞くようにしているが、難しい場面もある
- ・情報化のわりに興味関心以外はあまり情報を持っていない気がする
- ・具体的な内容がイメージできない
- ・病態像が重い方の両親に明確な社会参加を示す事が難しい

7 個別の必要に応じて支援を受ける権利

- ・努力はしているが十分に守られているとは言えないと感じる（他 20 件）
- ・どうしても人手が足りず、対応しきれない現実があるので（他 18 件）
- ・まだまだ、色々なところで差別は起きているから（他 5 件）
- ・社会に参加して交流ができるように、その子どもにあわせて助けてもらえる制度が整っていないから（他 3 件）
- ・子どもの多くが支援を受けるすべを知らない（他 2 件）
- ・例えば保育園の医ケア児受入れに制限があったり、学校に限られたり、まだ難しさがあるかと感じます
できあがったコミュニティーに入るのは、とても難しい
- ・「子どもにあわせて」助けられていないと思うから
- ・助けや支援が必要なのに大人の都合や行政のルールでないがしろになっている子がいるから
- ・教育
- ・障がい等に関しては、まだまだ平等だとはいえないと思う
- ・個別の対応の難さ支援者の力量が関係してくるから
- ・配慮しているというポーズをしているだけで、対応は画一的なものになっていると感じる。とりあえず型に入れて対応をしていることが多いのではないかと
- ・食事のままならない子供がいるから
- ・格差が進む現状だと感じます
- ・支援を受ける権利があっても、それを行使できる人とそうでない人がいるため。本人が希望し、自らが動かなければ支援を受けられない印象がある
- ・貧困等で受けたくても受けられない子どもが増えていると思うから
- ・子どもの姿も多様化しており、必ずしも必要な支援が求めている支援と合致しているのか分かりづらいため
- ・支援が必要という判断が難しい場合もあるため、見過ごされてしまうこともあるのではないかと思ったから
- ・多様性が大切とはよく言われるものの、国籍や障害などは人々の理解を統一することが難しく、同じ言葉を聞いてもイメージが様々であるため、その子どもに合わせることの難易度が高いため
- ・配慮が必要だと職員が考え対応をしても、家庭との温度差や意見の違いがあり、上手くいかない部分もある。支援が必要とあっても親としては認めたくない部分や、支援を受けるにあたって、自分がやってきたことを否定されると感じる人がいるのではないかと思う
- ・虐待により命を落とす子どもが絶えないため
- ・その子の保護者や周囲の大人の采配で、支援を受けさせてあげることができたり、できなかつたりする現状があると感じる
- ・学校教育では、まだまだ一斉指導が中心で個に応じた支援が十分に行われているとは言えないから
- ・助けを必要としている子ども、保護者、家庭が、まだまだ存在し、そのような人たちとのつながりができていないことがあると感じる経験をしたため
- ・同じ活動ができないことがあるため
- ・個別級の数も増加しているため
- ・今の日本の教育環境だと「集団」に重きを置いていることが多く、集団に馴染めない児童が困難を抱えているから
- ・一部守られているが、個別支援にも多様性が見られるのでより細分化した支援は今後も考慮する必要があると考える
- ・支援する主体が大人なので見つけないと支援できない
- ・権利の範囲が難しい
- ・自分自身で必要だと思う支援を子ども自身が考えられていないため。保護者の判断で動いているような気がするの
で、守られていないと感じる ・決まりきった内容の支援が、多いのかなと感じる
- ・守られている子どもが多いと思いますが、環境によっては、守られていない子どもがいるのではないかと思う
め
- ・だんだんとすくなくなってきたきはいると思うが、今も確実に存在すると思う
- ・保護者が家庭でその子と関わる中で感じる困りと、保育園という集団のなかでの子として関わる際の困りは違い、
保護者保育者それぞれが子どものことを考えてはいるけれど答えを導き出すのが難しく、苦手を伸ばしたり支援
することでのびのび楽しく安心して生活できることが養育者間でまとまらなかつたり一方通行な気持ちで支援を受け

- ることができない。伸びる可能性をきってしまうことになりかねない
- ・周囲の人たちの意識がうすいため
 - ・子どもにとって、必要な環境だとしても、その子を保護している人が気づき、申請しないと受けられないでいる子どもいるのではと思うから。子どもから発信するのが難しいと思う
 - ・現在の、学校のシステムでは、難しいと思う
 - ・どれもそれなりに守られていると思う。しいていうならば、日常生活の中で、細かい差別的な言葉をすべてなくすことはかなり困難ではあると考えるから
 - ・対応が不十分。特性を把握できていないこともある
 - ・誰に対しても個別に必要な支援をするべきだが、個別の支援が特別のような感覚をもっている人がいると感じる
 - ・まだまだ障害や病気への理解が乏しく、そういった支援を必要とする子どもが多くいるため
 - ・学校の枠組みの中で、それらが十分ではないと感じることがあります。本当にその子にとって必要な支援を、必要なタイミングで提供できているかというところがそうでない場合があります。しかし、それは「人が足りない」「場所が足りない」「時間が足りない」「お金が足りない」といった「足りない」によるものであり、一教師や一学校の努力で補えないものも多い気がします
 - ・まだまだ設備も整っていないと感じる
 - ・個別指導が追いつかない
 - ・個人の情報があまりにも複雑でどこまで対応するべきか明確ではないから
 - ・子どもにあった支援がされていない
 - ・例えば学校でいうと1クラス40人近くと人数が多く、一人ひとりに配慮や支援がいきわたらない
 - ・支援が必要な児も増え、多様化している中で、個別配慮をしようと様々な場所で工夫していると思うが、まだまだ十分な支援はできていないと思う。環境（物的にも人的にも）が行き届いていないのではないかと
 - ・子どもへの理解が進まないのは大人たちの考え方をアップデートできてないところが問題なのではないかと感じます。個々の子どもの挑戦を潰さず支えられるように大人たちで意識して行動できるといいのと思う
 - ・難しいです……
 - ・社会参加のために個別支援はおこなえていないと思うため
 - ・まだまだ支援の行き届いていない、逆にその権利をたてに自分の主帳ばかりする保護者などのせいで学ぶ権利を奪われている子どもがいるから
 - ・学校環境、職員数(教員)が整えられていないから
 - ・学習面では特に差が出やすく一人一人に合ったもの
 - ・学習をしている場が少ない。塾など学力を上げる目的の中に授業におくれないようにしている子どもは多いと思う
 - ・その子に合わせてが本当に合っているか悩む
 - ・自分自身の勉強不足でそう感じる
 - ・たくさんの制度や支援はあるが、情報格差や狭間でセーフティネットからこぼれてしまう子どもがいる
 - ・学校教育において、支援が十分に行き渡っていない現状がある

II 『あなたの職場環境や子どもとの関わり』についてお聞きします。

Q5 あなたは、子どもから相談されたことがありますか。(〇は1つ)

	件数	%
1 ある	233	63.1
2 ない	135	36.6
無回答	1	0.3
合計	369	100.0

Q5-1 Q5において「1 ある」選んだ人にお聞きします。相談されたことに対して具体的にアクションを起こせましたか。(〇は1つ)

	件数	%
1 はい	210	90.1
2 いいえ	9	3.9
無回答	14	6.0
合計	233	100.0

【具体的なアクションの内容】

- ・職員間で共有し、支援、対応方法について検討し、実施した（他 29 件）
- ・関係機関と繋げるなど（他 28 件）

- ・当事者同士の話し合いの仲裁（他 24 件）
- ・子どもの話を良く聞き、対処法を一緒に考える（他 17 件）
- ・子どもが困っていることに対してできる支援を考え、提案した（他 8 件）
- ・相談されたことを、保護者に伝える（他 4 件）
- ・子どもから直接話を聞いたり、必要に応じて保護者からも話を聞いたりして状況把握を行い、学年主任や管理職からの助言も頂きながら慎重な対応を図った（他 4 件）
- ・校内でサポートできる体制を整えたり、関係機関と連携したりした（他 2 件）
- ・話を聞く（他 19 件）
- ・共感したり、アドバイスしたりした。また、いろいろな考えがあることや将来のことなどを少しでも安心ができる内容の話をした（他 2 件）
- ・本人、保護者から、状況確認を行い、それに関わる人物(第三者含む)からも聞き取りを行い、なるべく中立な立場で判断した。秘密事項、個人の尊厳には十分配慮する ・相談と言うより質問され答えました（他 1 件）
- ・友だちと話したい、という希望に沿って、話し合いの場をセッティングした（他 1 件）
- ・対処する方法を伝えた（他 1 件）
- ・1対1になれる時間や場所を提供し、相談に乗ったり、あらたまった場所でなくても歩きながら、掃除を一緒にしながら気楽に話せるタイミングを作る。相談内容によっては、上司や外部機関を交えて解決まで導く。秘密にしてほしいと相談された事で、公にすべき事項は子どもに除々に広げていっても良いか確認をし、許可や理解を得て、解決していく
- ・放課後に、一緒に話を聞いたり、保護者の方に連絡をしたりした
- ・アクションをしようとしたが、「え?そんな事言っていない」と言われた
- ・相談内容を共有し、対応した
- ・所内のご意見箱に苦情を書いて投函して貰った。苦情受付窓口の係に児童の相談内容の詳細を伝え、その委員会内で苦情を取り上げて貰い、対策を図ってもらった
- ・いじめの初期対応(話し合い、保護者連絡など)
- ・母に自分の気持ちを伝えることができず悩んでいたため、話し合いの場に一緒にいた。時にフォローしていた
- ・何年も昔のことになります。支援センターという場所柄、幼稚園児までのお子さんが利用されます。幼稚園年少クラスなので、相談があります...という言葉から始まりませんが、男児のいつもと違う様子から相談事であると感じました。いつも無口な年少の男児が幼稚園での生活の中で担任から怒られた時の話を始めました。まだうまく言葉に出来ないお子さんでしたが、ひとつひとつの単語を結び付けていくと怒られたことだと察しがつきました。その単語から想像できる状況をこちらが言葉に変えていくと頷いてくれるので、気持ちを確認しながら状況から想定できる行動も男児と確認していきました。ひとつひとつ気持ちを確認、整理することで最終的に「こうすればいいんだね」と、やり取りの中でまとまると、男児は笑顔でその場を去っていきました。この時のやり取りは、今でも男児の立派な相談であったと感じています。言葉にならない言葉を言葉に変え、気持ちを代弁していくことも一つのアクションと考えた
- ・安心して過ごせるような場作りを心がけて行った
- ・相談を受け、自発的な解決方法を促した
- ・家で母から暴力をふるわれるのが辛いとの相談を受けたので、父親に連絡を取り、連携して子どもを守った
- ・教室に入れない時に別室でたまに過ごし、いろんな話をしたり、その子の好きなことや得意なことを聞いて共有したりしました
- ・行動観察や実際に一緒に活動する。日々の言葉かけや日常会話を増やす
- ・苦手な大人が近くにいる、関わりに困っていると聞き、その大人になぜそのような関わりをするのか?相手は5歳なのでしつこくされると怖いと思う、その子どもが身体的なことをからかったことは行けない事だが、相手が『怖い』と思ったらやり過ぎであると伝えた。また上席のものに相談し、関わらないようにした
- ・子どもの感じている悩みや要望を整理し解決に向けて今度の動きを確認し、子ども自身にこういった職員の動きで良いが確認している
- ・子どもの意見を尊重して子どものやらせたいようにしてみた
- ・子ども悩みを傾聴して受け止めて、必要な関係者に相談して対応した。対応については役割分担をして、成果を確認しつつ見直しながら対処した
- ・相手に嫌な思いをしていることを伝え、次から行動を気をつけるように話した
- ・自分が生きやすくするためにどのような手立てがあるとよいか一緒に言葉で表現できるように話した
- ・精神的な面から、教室では学習したくないとのことで、別の場所に学習できるスペースを確保した
- ・相談された内容と同じような事が起きた時の具体的な行動について考えることができた
- ・相談者の悩みを受容しつつ、「あなた自身が安心して過ごす権利がある」というメッセージを伝えたり、保護者や校内の他教員と情報共有したりした
- ・相談員として関係機関と連携、保護者への助言
- ・相談内容をしっかり聴いて何を求めているのか明確にし、求めに応じれる範囲を説明し、行動し、結果を返します
- ・保護者と連携を取った。学校ができる範囲で対応した
- ・知識を得る

- ・乳児クラスなのではっきりとした相談では無いが、困っている事が分かったり伝えたりしてくれた際は思いを受け止め、その事が解決や納得できるよう関わっている
- ・保護者との面談。関係機関につなげる
- ・父親を自死で亡くした子どもが、授業中に突然思い出して、会いたいと言い泣きだした。気持ちを落ち着かせてまずはゆっくり話を聞いた。その後コーディネーターの先生や管理職に相談し、保護者に伝えた。相談できる機関を紹介し、日々見守りながら、安心して生活できるように心を配った
- ・保護者や学年職員、管理職との情報共有
- ・保護者の話を聞いたり気持ちに寄り添うことで保護者の心に安心感を与え、それによって子どもとの関わり方に変化が生まれた
- ・保護者との調整など
- ・保護者と連携、複数人の大人で考える
- ・保護者伝えられる内容は、保護者と共有したり、コーディネーターと共有して外部機関と連携を取ったりした
- ・本人と、どうしたいか相談し、その希望が答えられるように、どう行動すべきか助言した。子供の困り感に対する到達目標を共有し、日々振り返りながら、問題の解決に近づけるよう話し合いを続けた
- ・友だちとのトラブルの解決
- ・友達とのかかわりを相談され、学校に伝えて、解決してもらった
- ・友達関係の悩みに関する仲裁など
- ・話をゆっくり聞くこと。ゆっくりできる場を提供してあげること。必要に応じて相談先に繋ぐこと
- ・話を聞いたり、保護者と連絡をとり安心して生活できるようにフォローした
- ・保護者への連絡・相談
- ・お迎え時、徐々に帰っていく友達の姿を見て、帰りたくない相談を受けた。家庭内でなにかあったのかなと思いつつ、しばらくその子の側にそっといたところ、子どもの方から「だって、きゅうしょくのやさいたべれなかった。」と教えてくれた。おそらく、残したことを親に怒られるのが嫌だったんだと知った。お迎えが来るまで、その子と話をしていると一口頑張っって食べたことがわかった。保護者がきた時、子どもが「やさい残しちゃった」と言っていた為、一口頑張っって食べてましたよと伝えたところ親も子ども笑顔を浮かべていた
- ・カードゲームで遊びたい時に友だちを誘えない子がいた。大人と一緒に遊ぶのも解決方法の1つと思うが、代わりに友だちを誘って見せた。気負い過ぎない精神を学んだり楽しむ幅が広がる機会になると考えている
- ・相談というよりは、日々の活動や遊びを通し、友だちと遊びたい、でもどうすれば良いか分からない等。その子に寄り添いどうしたいのか?どうすれば良いか?など一緒に考え行動を起こしています
- ・学級内でのグループ同志のいざこざで全員で話し合いをしたことがある
- ・こどもから相談されたことを、周りの大人と共有し、こどもにいくつかの選択肢を用意し、問題解決に向けて動くことができた ・自分の好きな歩む道を堂々と進んでいけばよいと何度も話し合った
- ・その場だけ解決すれば良い、と考えず、今後の子どものことを考え言葉をかけた。例えばケンカした時など、大人が言うて言うことを聞かせるだけでなく、自分の気持ちを相手にどのように伝えたらいいのか、大切さについて話した

【アクションを起こせなかった理由】

- ・お話を聞いたことを行政機関に報告するまでしかなかった
- ・子どもの話を聞き、本人をねぎらったが、そこまです。 (家庭の事情だった為)
- ・相談されたことをひたすら聴き、そうすることで→本人が話をすることで…、本人が解決したため
- ・どのように進めていくのが良いのかわからなかったため
- ・家庭環境にどこまでふみこんでいいかわからないから
- ・子どもから聞いた家族とのことを解決する施設ではないので、話を聞いて寄り添った
- ・友達との関わりについて、アドバイスしたが、こどもの交友関係にどこまで手を出して良いのか悩んだ

Q6 あなたは普段子どもと関わったり、支援するときに、子どもの権利や条例の内容を意識して関わっていますか。
(〇は1つ)

	件数	%
1 意識している	160	43.4
2 少し意識している	150	40.7
3 あまり意識していない	48	13.0
4 意識していない	7	1.9
無回答	4	1.1
合計	369	100.0

Q6-1 Q6において「1 意識している」「2 少し意識している」を選んだ人にお聞きします。子どもの権利をどのような場面で意識していますか。（あてはまるものすべてに○）

	件数	%
1 子どもに話すとき	212	57.5
2 子どもの話を聞くとき	268	72.6
3 子どもと遊ぶとき	119	32.2
4 身体的ケア（着替え、食事介助など）をするとき	132	35.8
5 子どもを見守るとき	162	43.9
6 その他	8	2.2
（無回答=0、N=310）		

【その他】

- ・保護者と関わる時（他1件）
- ・職員間や保護者と大人の会話をする場合。（子どもが近くにいる時）
- ・子どもが感じていることは間違っているのかと話されたとき
- ・大人同士による様々な会議の場で、それぞれの大人が使う言葉や言い回し、価値観などから、子どもを権利の主体と捉えられているのかなど意識します
- ・普段の仕事について振り返る時、またはイベントなどの目的を考えると
- ・子どもの権利が制限される時、例えば一時保護所へ入所することにより自由が制限された生活について考えるとき
- ・支援センターという場所なので、個々への配慮ができるよう、環境設定時から視野に入れて検討しています
- ・常に意識すべきことだから
- ・抱っこ、手をつなぐ際も意思確認をしている
- ・活動内容

Q7 あなたは、職場において、子どもの話を聞く時間がとれていますか。（○は1つ）

	件数	%
1 とれている	303	82.1
2 とれていない	58	15.7
無回答	8	2.2
合計	369	100.0

Q7-1 Q7において、「2 とれていない」を選んだ人にお聞きします、その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

	件数	%
1 子どもの話を聞く時間を取ることができないから	37	63.8
2 子どもが自分の気持ちや意見を言うことが少ないから	7	12.1
3 聞くよりも子どもに伝えることのほうが多いから	6	10.3
4 どのように聞いたり受けとめたりするとよいかわからないから	2	3.4
5 その他	12	20.7
（無回答=2、N=58）		

【その他】

- ・立場上子どもと接する機会が多くないから（他4件）
- ・子どもが話しをできる年齢の子の利用が少ないから（他1件）
- ・普段の業務があり、利用者とうまく時間がとれない状況がある。（2名の勤務が基本の為）
- ・向こうから話してくる時だけにしている
- ・直接的に指導をする立場でないため
- ・子供の話に耳を傾けているが、十分に聞いているかというところに自信をもつことができない
- ・子どもの話をしっかり聞いてあげたいので、聞く時間を確保できるようにしたいと思っている。しかしながら、話を聞く時間がとれる日もあるが、業務が忙しいときなど、すぐに聞けないこともあるので、とれているように感じないため。
- ・部活が多すぎる、仕事が多すぎて、子どもに関わる時間がない
- ・子どもの権利を意識せずとも、子どもが安心して、自分らしく生きることが大切だということをわかっているから
- ・話を聞いてほしいという子がとても多いから

・授業時数が 20 時間超で時間がとれない!

Q 8 あなたの職場では、子どもに関わること（運営方針、授業・保育内容、行事等）を決めるとき、子どもの思いや考えを聞いていますか。（○は1つ）

	件数	%
1 聞いている	150	40.7
2 だいたい聞いている	183	49.6
3 ほとんど聞くことができていない	31	8.4
4 聞くことができていない	3	0.8
無回答	2	0.5
合計	369	100.0

Q 8-1 Q 8において、「3 ほとんど聞くことができていない」または「4 聞くことができていない」を選んだ人にお聞きします。できていない理由は何ですか。

- ・障害のある子どもたちのため、直接話を、気持ちをさくことはできていない。ただ、子どもたちの姿、興味・関心をじっくり観察してみんな（職員）と話し合っています
- ・乳児だと意志の疎通がなかなか困難
- ・入職したばかりで、関わる時間があまりないから
- ・教職員間で決めることが多いから
- ・職員の中でも考えの違う人がいる場合、多数決に成り、子ども全体の声に全部対応できていない
- ・対象のお子さんが重度の知的障害だから
- ・子ども自身に聞く内容ではないと思うため
- ・子どもが参加して決めるような機会がないから
- ・大人が心配をしているから
- ・校務が忙しいため
- ・行事やプログラムの内容など、やらなくてはならないことは、子どもの意見を聞く前に決まってしまうから
- ・保育内容などは子どもの気持ちを聞いて決めることができていると思うが運営方針や行事などは実際にそのような時間や機会を設けてはいないと感じている
- ・どんな意見を出しても、最終的に上司が決めてしまう
- ・園でやらなければいけないことが決まっているため、保育者主導になってしまうことが多い
- ・利用者のお子さんは 0 歳児が多い為、声を拾いあげるのは難しいが、言葉と同様に捉えることができる表情や仕草から推測して判断しています。そして、どうであったかということも反応から拾い上げ、スタッフ間で話し合い、活かすようにしています ・子供と関わる時間が少ない。子供の意見ばかりを聞けない
- ・ユニットのルールや行事等はユニット会議を中心としながら子ども達の意見を聞いたりしている。また、それいがないにも生活を送るに当たっての不満や全体に気をつけてほしい事、変えたい日課等の一緒に話し合う機会もある
- ・運営方針や保育内容などは子どもの意見を都度行くなどは出来ていない。こういった機会をどこまで作って行くから園で検討していく必要あり ・事務作業や日々の事務におわれ、その余裕がない
- ・時間のない中で子どもの意見を聞いて自分で考え選択させる場面が作れていないように感じている
- ・日々、時間に追われ、やる事がたくさんありすぎて、ゆっくりと子どもと相談しながら進める、作っていくことが難しい現状がある ・しがらみや地域柄から聞いても取り入れることができないことも多いから
- ・運営方針や行事に関しては基本的なものがあり、見直しをすることはあっても聞くことはほとんどしていない。思いなど汲みとることはある
- ・子どもと一緒に行事を作り上げていく時間がとれない
- ・意見を聞く場を設けても、なかなか人数が集まらない。そもそも、聞く場を設けることが難しい
- ・骨格は職員が決め、その中で生徒の意見を聞くようにしている。ゼロからスタートで聞くとはほとんどしていない。

Q 9 あなたの職場では、子どもが悩んだり困ったりしたときに、悩んでいる子どもの情報を職場で共有して対応を考える仕組みがありますか。（○は1つ）

	件数	%
1 仕組みがあり活用されている	315	85.4
2 仕組みがあるが活用されていない	15	4.1
3 ない	38	10.3
無回答	1	0.3
合計	369	100.0

Q 9-1 Q 9において、「1 仕組みがあり活用されている」を選んだ人にお聞きします。その仕組みや活用した具体的な内容を教えてください。

- ・職員間のミーティングの場で共有（他 150 件）
- ・巡回カウンセラーや、保健室やコーディネーターなど、子どもが話しやすい場面につなげている（他 36 件）
- ・職場内の情報共有（他 31 件）
- ・情報交換を行い、複数で対応策を考えている（他 15 件）

- ・何か気になることがあった時は上司に報告、相談する。必要があれば他の職員とも共有する（他11件）
- ・伝達ノートなどを使用し、職員全員で些細なことでも共有をしています（他8件）
- ・アンケートなどをもとに、必要に応じて複数の職員で話し合い、今後の方針を相談して決定している（他6件）
- ・普段はラインを使って写真やその日の様子などを担当者がグループラインに投稿し、月に1回定例会で話し合う場を設けている ・パソコンに情報を掲示して、職場のみんなで情報を共有しています（他3件）
- ・悩みを書いて入れるポストがあり、ただ知って欲しいだけ、支援してほしいなど本人の要望によって対応を変えながら悩みを解決している（他3件）
- ・いじめの相談→管理職やカウンセラーと共有→いじめ防止委員会を開くなどです（他2件）
- ・何かあった際は職員の皆さんへ伝える様にしています（他1件）
- ・職員から→主任→園長
- ・情報交換する場が用意されている
- ・普段から「みんなで考えていこう」という雰囲気なので、気楽に相談できる
- ・親子面談など数回に応じて行う
- ・職場内で共有し、必要に応じて、関係機関につなげている
- ・さまざまな、職種の職員がお互いに相談しながら、支援を進めているから
- ・連携相談出来る
- ・相談員という立場なので話をよく聞いて認めてあげることにはできる。その前にまず、話すことが難しい子ばかりなので、自分の気持ちを表せるよう、ゆったりとした活動を組んでいる
- ・普通の会話で子どものことを話している
- ・子どもの意見表明が法律でも義務化され、大事な決定場面では子どもの意見聴取を行い、組織決定の場で共有
- ・お迎えが、こなかった時の為に、第2、第3、また、職員の対応などを共有して、どのようにするか。（児相に連絡等）対応が決められている
- ・学年会・Co→児童指導→必要あればケース会議→他機関と連携
- ・トイレの扉が指詰めなどの危険があり、取り払われていたが、恥ずかしい気持ちを伝えてくれた子がいたので、カーテンをつけた ・他職種が連携して、子どもの権利を守り、子どもに耳を傾ける機関である
- ・生徒の保護者の対応により、生徒の心身の健康が脅かされ、児童相談所と相談のうえ、一時保護となった。本人の希望に添い、定期的に学者支援を行っている
- ・アドボケートが始まったが、具体的な内容はまだ知らない
- ・子どもの様子を共有したり、子どもから訴えがあったばあいには、対応を一緒に考えて行く
- ・給食の席で向かい側の友だちに蹴られる子がいた。好きの裏返しで行ったことであるものの、関わり方を見直せるよう席替えすることにした。重ねて、友だちの良かったことを発表する時間を設け、日々継続したことで互いが楽しく関わるようになった
- ・その子どもに関する会議の場では、必ずその子の意見や思いを確認されている
- ・保育園、一時預かり、支援センターという3つの機能を持ち合わせた職場である為、相談、共有できる場はあります
- ・学年の集団はもちろん、支援コーディネーターや管理職などに相談して進めるから
- ・普段の情報交換や、他愛のないおしゃべりから、コーディネーターさんやその子にかかわる職員に話が伝わり、みんなで対策を考えることができた
- ・それぞれ話は聞けるが、共有できていない
- ・担任と話せる場を設ける、相談された時や相談まで行かなくてもやりとりの場面に遭遇し、相手が泣いているのに何人かで責めるような場面には仲だちとなる。その後担任、園長に伝え情報共有し様子を見続ける。また、会議で情報共有している
- ・相談を受けた際は職員間で共有し、場合によっては学校、児童相談所に連絡する
- ・複数の職員で悩みについて関わり1人で抱え込むことしないような仕組みである
- ・チャンス面談
- ・学校のいじめに関して学校へ連絡し、対応する。どの方が電話に出ても対応できるようにしていた
- ・職員会議等で話し合い共有すると共に時には必要な機関へ連絡・相談している。また、保護者とも面談等行っている
- ・同職種と相談し合う事が日常にある。他者と気軽に相談できる事で、他職種との連携を他者から提案され、フットワーク軽く行動を起こす事が可能になる
- ・区役所の児童課と連携している
- ・学校や関係機関との連携
- ・対応者が記録に残し、職場の申し送りで共有する。子どもの思いを確認した上で、友達や親へつなげられるよう、介入する
- ・安心安全チェックリスト→子どもが普段の担当以外に話をきいてもらえる担当の人がいる

Q9-2 Q9において、「2 仕組みがあるが活用されていない」を選んだ人にお聞きします。その仕組みの内容や活用されていない理由を教えてください。

- ・職員会議などで共有はしているが、当園で長らく働いている職員の意見で解決したと思わせる。他職員が意見してもすべて否定され、聞き入れてもらえない。根本的な解決にはなっていないので、活用できていないと思う
- ・情報共有はされているが、そこからの動きはごく限られた職員(担任)のみが動く形になっている
- ・大きな内容なら対応を考えるとところまでしているが、たいしたことないと判断された場合はそのままになることが多い
- ・上司に相談し、対応するが、職員全体で話し合う所まではいけていない
- ・ケースカンファレンスなど、具体的に話し合う場を作ることができるが、必ずカンファレンスをするかといえば、そうではないので、活用されているとは感じない
- ・みなさん忙しそうに相談しづらい
- ・時間がとれない
- ・共有も十分にできていると思うが、対応できずにいること、対応が十分でないと思うことがあるため
- ・子どもの権利に関する研修や会議で職員に向けた啓発活動を行っていたり、虐待等が疑わしいケースがあった時にチームを組んでアプローチをするといった仕組みはあり、他部署では実際に相談があり活用されている話は聞いて

いる。自分がいる部署は就学前の障がいを持つ子ども達が対象なので、彼ら自身に悩んでいること・困っていることを表現する力が伴っていないことが多く、明らかに保護者の子どもに対する接し方に問題がある時には職員間で情報共有し、保護者に啓発することはあるが、チームを組んでアプローチをするところまでいった例は見たことがないため

- ・ゆっくり対面する時間が取りづらいため
- ・職員通しのコミュニケーション不足
- ・軽微な問題だと、仕組みを利用するより、関係職員ですみやかに解決した方が時間的にムダがないため

Q10 川崎市には次のような相談を受けてくれるところがありますが、知っているものは何ですか。

また、連携・紹介したものはありますか。（知っているものは○、知っていて連携・紹介したことがあるものは◎）

【知っているもの】

	件数	%
1 保健福祉センター（地域みまもり支援センター）	303	82.1
2 児童相談所	361	97.8
3 児童・青少年電話相談	265	71.8
4 児童虐待防止センター	264	71.5
5 民生委員・主任児童委員	287	77.8
6 スクールカウンセラー	330	89.4
7 総合教育センター	258	69.9
8 24時間子供SOS電話相談	275	74.5
9 教育委員会の教育相談室	212	57.5
10 電話相談ホットライン(体罰など)	250	67.8
11 インターネット問題相談窓口	168	45.5
12 やまびこ相談	52	14.1
13 かわさき若者サポートステーション	75	20.3
14 人権オンブズパーソン	221	59.9
15 川崎いのちの電話	268	72.6
16 かわさきチャイルドライン	228	61.8
17 子どもの人権110番	245	66.4
18 神奈川県弁護士会 子どもの人権相談	78	21.1
19 その他	5	1.4
無回答	3	0.8

【その他】

- ・警察署の生活安全課（他1件）
- ・運協、保護者
- ・近くにいる大人（保育園ならば先生）
- ・主に園長が窓口になり地域みまもり支援センターや児童相談所と連絡をとっている
- ・フリースペース たまりば えん。子どもの居場所として、一つの相談機能を併せ持つてると考えます
- ・川崎市国際交流センターに、電話をして、外国人児童についての相談をしたことがあります
- ・川崎市こども未来局
- ・デイサービス

【連携・紹介したことがあるもの】

	件数
1 保健福祉センター（地域みまもり支援センター）	88
2 児童相談所	136
3 児童・青少年電話相談	15
4 児童虐待防止センター	24
5 民生委員・主任児童委員	49
6 スクールカウンセラー	98
7 総合教育センター	90
8 24時間子供SOS電話相談	6
9 教育委員会の教育相談室	22
10 電話相談ホットライン(体罰など)	3
11 インターネット問題相談窓口	3
12 やまびこ相談	9
13 かわさき若者サポートステーション	14
14 人権オンブズパーソン	21
15 川崎いのちの電話	6
16 かわさきチャイルドライン	4
17 子どもの人権110番	4
18 神奈川県弁護士会 子どもの人権相談	9
19 その他	4
無回答	183

Q11 あなたの職場で、子どもを支援する際、関係機関や地域団体と協働・連携して行うことがありますか。具体例や理由を含め教えてください。（〇は1つ）

	件数	%
1 ある	332	90.0
2 ない	30	8.1
無回答	7	1.9
合計	369	100.0

【「1 ある」を選んだ具体例】

- ・児童相談所と連携・連絡を取りながらの対応（他 85 件）
- ・気になる子どもの保護者への対応の際、療育センターと連絡を取り合っている（他 35 件）
- ・市・区の担当者と連絡を取り合える状況にある。そこから、子どもの情報を共有し、検討する時間も設定されている（他 30 件）
- ・スクールカウンセラーに話を聞いてもらい、聞いた話を（共有できるものは）共有してその後の対応の仕方を相談している（他 21 件）
- ・地域みまもり支援センター気になるケース、子ども、情報共有し、協働している（他 18 件）
- ・学校などの教育機関（他 18 件）
- ・総合教育センター（他 8 件）
- ・虐待などが発覚した場合、児童相談所と連携した（他 7 件）
- ・ケース会議に参加などし、保護者の対応もふまえた支援の検討などを行った事がある（他 6 件）
- ・要保護児童対策地域協議会における個別支援会議（他 5 件）
- ・お祭りや大掃除等大きなイベントなどに日頃から団体利用されている方や運営協議会などの方とともに行っていきます（他 4 件）
- ・関係機関や地域と連絡を取り支援する（他 4 件）
- ・デイサービスなど(放課後)、引き渡し時、様子等の情報共有（他 4 件）
- ・情報交換をする時間を設け、その都度気になる事項に関して連絡を取り合っている。地域の方と協働の行事を実施している（他 3 件）
- ・ワクワクスタッフと情報共有（他 3 件）
- ・区の保健師、保育所等地域連携の方に気になる親御さんを伝え、見守ってもらう（他 3 件）
- ・警察、少年保護センター（他 3 件）
- ・子育て支援イベントを民生委員と協同で行う（他 3 件）
- ・家庭での環境子どもの相談をしたい時に（他 3 件）
- ・SSW 親子の関係性の問題(家庭に入ることが難しいため)（他 2 件）
- ・幼稚園・保育園への訪問（他 2 件）

- ・国籍の違う家庭の情報共有、支援の相談（他1件）
- ・不登校児童への支援として「ユウユウ」と連携している（他1件）
- ・スクールカウンセラーと連携し、医療機関につなげることもある（他1件）
- ・不登校生徒に関して
- ・両親が亡くなった生徒の支援
- ・キッズサポート
- ・虐待、保護者に支援が入っている家庭
- ・保護者の就労や保護者の体調面など
- ・SCやSSW、Pt、Otなどの来校
- ・SNGさんと連携して不登校支援
- ・家出をして行方不明になって、発見された後児相扱いになり、情報を共有するなどして生徒を連携して見守っている
- ・運営協議会、町内会、警察等の方々と、会合を持ち日々、話し合いをしている
- ・エンパワメント神奈川、CAP事業
- ・心理司、精神科医、人権オンブズパーソンなど
- ・スクールカウンセラーはcoや保護者から話があって連携する場面がある
- ・虐待や不登校児への対応
- ・区要保護児童対策協議会、児童母子福祉施設協議会、川崎市子ども未来局児童家庭支援虐待対策室、児童相談所等との各会議、ケースカンファレンス等
- ・育児が難しい家庭の情報を、民生委員さんと児童相談所と相談している
- ・地域子育て支援センターや民生児童委員、地域の幼児向け団体さんなどと連携し、避難訓練や命の大切さを伝えたり、子どもたちのために行事を考えて共催で開催したりしている
- ・カンファレンス
- ・居住地へのケースワーカー、情報文化センター
- ・子どもの支援、困り感の共有・相談、進路など
- ・子どもが昨日なかった傷をつけて登園してきた時。子どもの進路を決める時
- ・個別支援会議
- ・子どもの特性等、学校の先生(担任の先生)に学校での様子も伺いつつ把握している
- ・個別に配慮が必要だと判断した際
- ・サポートセンターなど
- ・不登校・学習支援
- ・支援を必要とするご家庭があり、みまもりさんと共有している
- ・地域支援をする業務の為連携の必要
- ・施設職員の為、入所児童の支援方法について等で連携している
- ・保健師さんとの連携
- ・自分の部署では支援できないことを他機関に協力依頼し、連携して子どもを守った
- ・保護者の方から相談を受けたとき内容によって、学校ではなく、外部機関につなげたほうがよい
- ・本人の困り感、不安をいかに解消するか
- ・夕食を殆ど食べていない、入浴していない
- ・行方不明児童がいた際に情報や連絡が来て、連携して相談していた
- ・より良い方法の指南をうける
- ・幼稚園訪問、小学校、中学校訪問等
- ・移動動物園、老人ホーム、年長児交流
- ・会議や家庭訪問など
- ・各担任が心配な生徒を巡回支援員の方に見てもらい、対応方法などを考える
- ・気になるお子様を保育中に見に来ていただく
- ・虐待などで連携する。教室での支援が足りない場合に
- ・虐待など家庭の問題への対応、学習の支援、在留資格の問題
- ・生徒の登校支援
- ・子どもの支援＝保護者の支援であることが多いので、状況に応じて対応しています
- ・指導主事やカウンセラー、学校等と協働、連携している
- ・人権研修等の依頼（総合教育センター）
- ・支援者会議を行なって、外部の機関と情報を共有している
- ・不登校、虐待など
- ・児童支援担当の教員が学校側の窓口になり、関係機関等と連携している
- ・児童相談所や教育センターと連携して子どもを支援している
- ・児童相談所内の一時保護所であるため、常時連携している
- ・親子支援は子ども支援に通じるという観点から、同法人内の関連施設機能理解に努め、また川崎市の3つの支援事業も行っていることから、横のつながりも大切と考え、必要に応じ紹介も行っています
- ・性的マイノリティの子どもにはさまざまな団体に授業をしていただいた
- ・相談支援の方と連携を図り、支援をより良くするようコミュニケーションをとっている
- ・体育指導の先生がきて運動を教わったり、ゴミ収集車が園庭にきて動きを見せてくださったりしている。
- ・非行行動のある児童がいれば地域の警察、地域の清掃に参加し住民との交流、近隣の保育園と合同で避難訓練等必要に応じて地域とは連携をとっている。また、定期的に地域支援会議を行い、地域の民生委員や町内会長等幅広い方々が園に来園し法人として目指していく流れを共有し、施設の理解を広めている
- ・必要に応じて、関係機関でカンファレンスを実施し、支援の役割分担をおこなう。

【「2 ない」を選んだ理由】

- ・あるのかもしれないが把握していない（他1件）

- ・支援を必要とする子どもと接する機会がない (他 1 件)
- ・活動内容や連絡先等がよくわからない
- ・支援が必要になるタイミングがほとんどない
- ・必要な事例があればやる。現状としてはない
- ・まず校内(組織内)で対応できているため
- ・まだ、そのような案件に出合っていないから
- ・学齢の高さ
- ・関心がない
- ・始めたばかりなので分かりません
- ・深刻な問題を抱えた子どもに出会ったことがないから

Q12 あなたの職場では、「子どもが」子どもの権利を学ぶ機会がありますか。(〇は1つ)

	件数	%
1 ある (半年に1回以上)	69	18.7
2 ある (年に1回程度)	140	37.9
3 ある (数年に1回)	26	7.0
4 ない	129	35.0
無回答	5	1.4
合計	369	100.0

Q13 あなたの職場では、「あなたが」子どもの権利を学ぶ機会がありますか。(〇は1つ)

	件数	%
1 ある (半年に1回以上)	90	24.4
2 ある (年に1回程度)	168	45.5
3 ある (数年に1回)	42	11.4
4 ない	64	17.3
無回答	5	1.4
合計	369	100.0

Q14 あなたの職場において、子どもが安心して、自分らしく生き、社会に参加しながら成長できるように、子どもの権利を保障していくうえで、課題に感じていることがありましたら、具体的に書いてください。

- ・集団の中で生活することと個人の主張を受け入れることの両立が難しいと思う (他 13 件)
- ・人手が足りず、充分に対応できなかつたと感じる場面がよくある (他 12 件)
- ・各家庭の状況が大きく異なること (他 11 件)
- ・保護者への理解をしてもらって啓発できているのか、することも難しい (他 6 件)
- ・自分たちのことを自分たちで考えて決める機会をあまり与えられていないと感じている (他 5 件)
- ・研修の充実+教員の個々の意識を高めるための工夫。(話し合いも含めて) (他 5 件)
- ・一人ひとりと向き合う時間がなかなか取れない (他 5 件)
- ・職員側の意識、知識の差が大きい (構造的に仕方ない面もありますが) (他 4 件)
- ・子どもが子どもの権利について学ぶ機会をもつことが必要だと思いました (他 4 件)
- ・現実(現場)のせわしなさに追われている。仕事量が多い (他 2 件)
- ・家庭の協力も不可決だが、家庭ごとの考えもあり、浸透しづらい (他 2 件)
- ・子どもの意志を丁寧に聞き取ったり、表出が難しい方には、その思いを正確にキャッチして行くこと。仲々、思っている事を思った様に発言できる方は少ないと感じている (他 2 件)
- ・無意味な校則など (他 1 件)
- ・今の子どもはやりたい様にやっている子が多いと感じる。「子どもの権利」という言葉を良いように捉えて問題行動を起こしている。入所児童でも大麻を吸ったりしているのに一時保護をされているだけで社会が、子どもに対して甘やかしているのが良い例である ・障害のある子どもの支援 (他 1 件)
- ・保護者の世話が增えた。保護者は伝えることが大事 (他 1 件)
- ・児童の名前を呼ぶとき、名字の「さん」付けの徹底が不十分 (他 1 件)
- ・1歳児クラスで、イヤイヤ期の時に、自分によゆうがないと子どもが自分で決める時間を作ることができないこと
- ・子どもの主体性
- ・子どもの忙しさ(塾、習いごと)
- ・目まぐるしく変化していく社会の中で、法律や条例などの理解はもっと深めても良いと思う
- ・威圧的な指導をする担任の先生がまだ多くいる。教室がもっと安心安全な所になるようにしていきたい
- ・上から目線で指導という建前の押しつけをするべきではない 50歳以上があたり前に言うことやすることを若い人は正しいことだと認識してしまうし、やれないことがプレッシャーになってしまう

- ・【みんな一緒に、一丸となって、〇〇魂、チーム〇〇】という一体感を煽る（そうでなければならぬと思わせる）雰囲気があること。その空気、雰囲気が少しでも乱れると、「一大事！」という空気が流れるので、我慢したり、諦めたりしながら、生きる術を学んでいるように感じている
- ・格差社会に起因する貧困
- ・職員ひとりひとりの意識のちがひ
- ・保護者との子どもに対する考え方の違い}これらをいかに共通理解にし、子どもにとってどうするのが最適かを導き出すことが難しい(課題である)と感じている
- ・相談されたときに、じっくり話を聴く時間が限られる
- ・児相へのハードルが高く感じる。各連携機関との温度差。(危機管理の思の違い)
- ・生きていく上で、全ての事に通じるものだから。子の多様化や、要支援の児童数の増加に共なった、教員職員数の配置と職員、教員の子に向き合うためのスキル、知識の向上
- ・県長、市長、区長の意識
- ・子どもは遊びの中で、学び、成長していくものだと思うが、その場所が選べない、限られている、管理されすぎていると思う。管理されすぎた環境の中で、息づまりを感じる。もう少し、子どもにも抜け道があって良いのではと思う。それには治安であったり、世の中がゆったりできる、余裕のある大人がたくさんいること。地域が見守る大人がたくさんいてたまには目をつぶることができる世の中であってほしい
- ・教員など大人の質→社会の安定力
- ・いじめや虐待は気づくのに時間がかかったり、子どもの方から助けてというのが難しいことも多いと思うため課題が多いのではないかと思う
- ・大人都合で活動し、子どもの主体性がほぼない。それまでの課程を見ていないのに決めつけてどなり怒る。不適切な保育そのもの。以前監視が入ることもあったが、改善されていない。子ども達も職員も疲弊している。助けてほしい
- ・家庭内での教育(過保護)が多い為、学校での指導がままならない事案が増えている。何でも「よし」とせず、だめなことはだめと訴える社会になるとよい
- ・家庭の経済的困窮に対する援助が難しい点
- ・着替え、オムツ交換、トイレ等、プライバシーを守る空間が少ない
- ・ケース数に対する職員数の不足あり、充分相談できない、もしくは、支援者のドロップアウトにつながることも多い
- ・ここ数年は、主体性を重視した保育に切り替えているが、年齢が小さい学年だと、一人一人の気持ちを理解するのが難しいと感じることがある。支援の必要な子どもが増えてきて、その際に療育センターなどに対して前向きではない保護者の方へのアプローチの仕方が難しい。保護者の方の気持ちを受け止めながら背中を押すための関わり方が課題と感じることが多い
- ・子どもに対する声かけ等その子に合った内容で出来ているか
- ・子どもが目指す道を進める様、背中を押してあげたいと思いつつ、子ども自身がその道を発見できていない時、適切なサポートができているのか？自問自答することがある
- ・子どもの権利について、深く学ぶ機会が足りない
- ・子どもに関わる職場だけではなく、子どもの数が少ない今、親が発達段階にふさわしい人間教育をする経験が不足している為、社会全体(大人)が勉強する場を沢山作る必要があると思う
- ・子どもの受託時間の長さ
- ・子どもの権利を学んでも、社会的に浸透しているのか?と感じることがある。色々な機関はできているのですが子どもにとっては敷居が高かったりする。理解をするには、もっと大人も幸せになるように社会のゆがみもただしていくことを求めたいし、子どももしっかりとした理解をしていくことが大切。また私たちももっと学ぶべき内容であると感じます
- ・一時保護所に保護された子どもは、学校に登校できず学習権の保障がない
- ・子どもの人権について、プロジェクトチームが中心になって会計年度任用職員も含め、職場全体で学ぶ機会を持っています。振り返りながら働き掛け、援助を子どもの思いに寄り添って行えるよう、また疑問は声に出せる環境作りをしながら学び合っていますが、世代等による考え方の違い等の難しさがあることも否めません
- ・子どもや保護者が、地域とのつながりを避けることが多くなり、地域間の人と人との距離が遠くなっている。そのことで、他者のことをいたわったり、共感したりということに慣れていないケースが多々見られる
- ・子どもをまん中に考えて、まわりの大人、保護者、職員全体が、その子の為に、今、何が必要かという事を共有し伝えていく事。また、一緒に考えていく事
- ・子どものやりたいことが状況によってやらせてあげられないとき
- ・このような権利が定められていることを知らなかった。人権問題はとても大切だと感じるので、学ぶ機会を多くとり、子どもに携わる大人から知って発信をしていくことが大切だと感じた
- ・ゆとり
- ・社会資源が足りないです。子どもの権利を保障していくなら、子どもを育てている親への支援が必要です。でもその資源が足りないです。一時保育、ショートステイ、デイステイ
- ・違いを理解してくれる社会
- ・成長できるためには、個で子どもの悩みを対応する必要がある。そのための、人が足りない
- ・担任している子どもには伝えていけても、系統的な仕組みかできていないと1年で終わってしまう

- ・聴覚障害特有の困り感を卒業後の就労施設等にわかりやすく伝えていくこと。個々の課題特性があることを理解してもらえようになりたい
- ・どのような子どもに対しても平等に保障できるのか
- ・職場だけでなく、家庭や地域との連携をより密にしていける必要があると思います
- ・何らかの問題があって、保護されたり、見守りの中ですごしてきた子どもたちが施設へ入所してきて一緒に生活を送っている。しかし、保護や見守りの輪の外にいる子どもたちに対してどのようなアプローチができるか、は課題だと感じている
- ・日々の生活の中でゆったりと落ちいた雰囲気の中で遊びを通して一歩先への経験を味わわせている。表現・言葉（Englis）・体操・（絵画、音楽）
- ・啓発活動がもっと常にあれば良いと思います
- ・不特定多数の児童、生徒が利用する施設だが、保護者の姿は見えずらい状況なため、怪我をするなどの際に迎えにきてもらう程度である。又、信頼関係を築くことができるまで通い続けてくれることができるかどうかネックであると感じている
- ・ベテランの先生方が多いのでいわゆる昔の保育から今の保育に考え方を変えていく事が難しい事があると思う事がある
- ・まわりの人の意見を聞こうとしない、自分の考えややり方を主張する上司が存在すること
- ・保育士を増やし、手厚い保育をしたい。障がい児と認定されてはいなくても、大変な子どもへの手厚い十分な保育を保障したい。又、保母者にも子どもの育ちや保育を啓もうする機会をつくっていったら良いのでは
- ・ゆっくりと子どもに向き合うことができず、個別に対応することもできず、一人ひとりの特性に気づいてあげることができないこと
- ・安全性を優先する中で、時に子供の気持ちに反した判断をする必要があるが、そのことをどう理解してもらおうか、どのように支援するか
- ・意見が伝えられない、伝えづらい児童に対し、どうしても大人の意見や他人の意見が強くなってしまうこと
- ・一時保護所の特性上、スマートフォンの使用制限や登校制限がかかってしまう。また、個人情報の取り扱いの観点から、名字や年齢を明かさないなど、多くの制限があり権利保障として課題を感じる
- ・加配のお子様につき職員が社員である事が少なく非常勤の社員なので、毎日同じ社員がついた方が継続して関わる事ができて良いと感じる
- ・こどもリーダーを中心にわくわくプラザに来ているみんなが、いかに話し合いながら一つのテーマを決定できるかということ
- ・教室で座ってられない、走りないけど走る場所がない子どもたちの気持ちに答えてあげられない。どうしても施設的に走る場所がないので我慢をさせてしまっている。今はひとりになる場所を作って対応していますが本人は納得いかないようです。そういう子どもたちの「自分らしく生きる権利」に反しているような気がします。そういう子どもたちが複数人いるので、ひとりひとり子どもにあった対応策を毎日考えるのが課題です
- ・研修他メディア等で本当に困っていたり、悩んでいる子程、周りに相談をする勇気を持たず、苦しんでいることが多いと感じ、職場における小学低学年に困った時は相談をして良いことを伝えていっているが、そのメッセージをそれ以降も覚えていて欲しいと感じている
- ・子どもたちが選べることができる環境づくりが難しい
- ・行政の制度を使い保障していこうと思っても、なかなか時間がかかることが多い。児童相談所で一時保護してもらい、一時的には回避できるが、その後、子どもたちが安心できる家庭が築くことができるかは難しい
- ・挫折、壁にぶちあたって落ち込む、自信をなくす等の経験をすると立ち上がれなくなるほど塞ぎ込んでしまう子どもがいるし、時には自殺企図までいきます。そういった子ども達を明るく前向きになれる状態に進んでもらう為には、とんでもない時間と労力が必要です。そこをサポートする大人は一人では到底無理。ですが、行政の構造上、担当者は短い期間で変わってしまいます。信頼関係なくして、前向きな支援は望めないでしょう
- ・昨年乳児クラスは食事や睡眠など、お腹が空いた子から食事したり、眠たくなったら自分から布団に入ったりしながら個々に応じて対応し、安心できる環境の中で保育しています。そうした環境の中で幼児期でどのように成長していくのか見守っていきたいと感じています
- ・子どもから何がしたいのかを聞き出すのが、難しい。多様な価値観の中で子どもは暮らしているが安心して、自分の発想を表すのは自由にものが言える土壌を耕す必要があると思う。子どもの権利を保障するためには、保護者への啓蒙が大切な気がする
- ・子どもが安心して、自分らしく生き、社会に参加しながら成長するためには、まず大人が安心して自分らしく生きる必要があると考える。しかし、大人が本当にそのように生きていられているか、そこが検討に値する問題・課題
- ・子どもが自分で選択したり決めたりする場面を意識してあえて設定しているが、そうすることが当たり前になってくる世の中になると良いと思います
- ・多様な子ども同士の関わり合い
- ・子どもの安心・安全を守ることと、子どもの希望を叶えることの両立が難しい場面が多い
- ・子どもの怪我やトラブルを嫌い、子どもたちの挑戦する機会を減らしてしまっている
- ・子どもの特性や子ども同士の関係性で他の子どもが安心できない事がある。全ての子どもたちの安心、安全の保証の難しさを感じることもある

- ・子どもの権利を保証するには、大人の権利の保証も必要である
- ・子どもは真剣に悩んでいたりと、不安に感じたりしているのに、程度によって放って置かれてしまうことがある
- ・子どもを支援するにあたって、子どもの意にそぐわない支援をする際に、いかに権利を守りながら子どもの福祉を保障するのが困難である
- ・子どもの意見すべてを受け入れることが良いとは難しくて言えない
- ・子ども運営会議などで子どもたちから意見や要望を聞く機会を設けていますが、なかなか子どもたちの方から発信することがないと感じています。外国籍の子どもの中には居づらさを感じている子もいると感じたことがあります。外国籍の子どもたちの気持ちや困りごとを理解する気持ちを職員が全員持つ必要性を感じました
- ・子ども自身がやりたいことを見つけることができないことがある。集団で生活する中で他児から影響を受け自分らしさを見失ってしまうことがある
- ・自分の権利を守っても、相手の権利を守らない
- ・支援が必要なことを認知できる環境が必要。まだまだ支援を受けることに抵抗がある雰囲気がある
- ・自主性がある子ども達は、自分の意見を明確にしそれを誰かに発信することが得意だがそれを難しいと思う子も多い。その為、普段から子ども達のことを尊重する事や一人ひとりと話す時間もできるだけ儲かるようにしている
- ・自分が子どものときもそうだったが、この子どもの権利条約があることを知らないと権利を主張できない。自分は親から学校行きたくないなら行かなくてもいい、自分が嫌だと思ことはしないで良い、自分が生きるために子どもの権利条約を読みなさいと本を渡された。読んで、これはみんなに伝えなきゃ！と文章に書いて発表したけど、なかなか上手く伝わらなかった。それは「そんなことを言ってもお母さんに怒られるだけー」など友達から言われた。確かに理解している大人がいればできるが、理解してくれない大人がいるともともこもない。大人が子どもたちにしっかりと伝える機会を作って欲しい
- ・自分の障害を理解して、どんな場面でどんな支援を求めるのか、個のスキルによる表現方法
- ・自分らしく生きるということと、周りとの協調しながら生きていくことのバランス。同調圧力という言葉があるが、ある程度は周りに合わせながら生活していくスキルも必要。多様性と同調圧力。その加減が難しいこともあるのではないかと感じている
- ・小、中、高生が同じ部屋に集まる時が有り、その時の小さい子の行き場がない
- ・職場の大人全員で、暖かく子供を見守ること。人によって声のかけ方が違ったり対応が違ったりすると、子供が混乱することがある
- ・職場全体での理解や周知がまだあまりないこと、実際に保育園の立場からできることや連携していく術を知らない職員が多いこと
- ・親の思いが強い方に対して、またネグレクトの親に対して子どもが安心して生活するためにどう支援していけばいいか
- ・子どもの権利に対する我々大人の肌感覚に温度差がある
- ・主体性保育の導入
- ・親子支援は子ども支援に通じることから、親子の困り感をキャッチしていくことに努めているが、ご自身から困り感を言葉にされない方へのアプローチ、距離の取り方等、個々への対応が年々難しくなっていると感じます
- ・全員が権利の保証を受けれているかと言えば違うのかなと思う。家庭の方針で学校での学習や行事に参加を拒否している場合もある
- ・地域との連携がコロナ禍を経験した後では、コロナ禍以前より少なくなっていると感じる。地域に出たり、地域の中で育っている事をさまざまな経験の中から感じ事も大切と思う
- ・保育指針に沿った保育
- ・中高生等高年齢児の対応が難しく感じる。それぞれが年齢や時代の流れに沿ってやりたい事が多くある中、スマホの所持や門限等施設としての枠と合わないことがあり、結果子どもの問題行動として捉えられがちである。非行行動が重なり施設内でも多くの反発や飲酒、喫煙等の法に触れるような行動があるときは他事の安心した環境が担保できない事になるがこういった行動で施設での生活を送れなくなった児童本人の人生や安心、社会性をどう教え込むかは難しい。上記のような高年齢児の適切な対応や判断がしっかりと取れることが望ましいが職員全体の年数の低さもあり、課題である。全体の人材育成をやりきれないからこそ、質問にあるような事が大切と思いながら目の前の子どもの対応に追われやりきれない事も課題の一つである
- ・適切な支援を受けることで出来るようになることがあると感じる児童がいたりするが、家庭の方針だったり思いがそれぞれありなかなか支援に繋がらないということがある。保護者は一生保護者で、保育園は卒園まで。しかしい子どもの一生のことも考えて保育をしていく中で感じるもどかしさはある。ただ産まれてから長く一生を共に生活する保護者の気持ちも理解できなくはないため、双方の思いの共有や支援につなげるべきというのも難しいなと考えます
- ・貧困や虐待、学習が苦手などで安心して生活を送ることができない子が多い
- ・支援が必要な子に適切な支援が届かないことは多々あると思います。その為に社会に参加しながら成長…という点が達成しにくいということはあると思います
- ・日常の些細なことが権利につながっていることに気づく機会
- ・発表するような行事では、保育者主導になることが多い。行事など保育以外の仕事量が多く、保育者自身のゆとりを作ることに課題がある ・乳幼児対象の施設なので、子どもの権利を意識しづらい

- ・保育園児なので、自分の思いを言葉にできない子どもがいる。それでもどんな子どもでも自分の思い、やりたいこと、やりたくないことなどを抱えていると思う。が、言葉が出ない分、子どもを保育士の都合に合わせてしまうことがある
- ・取り巻く環境などで、保証されていない子どもがいる場合があります

Ⅲ 『あなたの思い』についてお聞きします。

Q15 あなたは、自分が好きですか。（○は1つ）

	件数	%
1 好き	109	29.5
2 だいたい好き	196	53.1
3 あまり好きではない	55	14.9
4 好きではない	4	1.1
無回答	5	1.4
合計	369	100.0

Q16 あなたは、周りの人から大切にされていると思いますか。（○は1つ）

	件数	%
1 感じる	135	36.6
2 だいたい感じる	201	54.5
3 あまり感じない	23	6.2
4 感じない	2	0.5
無回答	8	2.2
合計	369	100.0

Q17 あなたは、毎日が楽しいですか。

	件数	%
1 楽しい	111	30.1
2 だいたい楽しい	219	59.3
3 あまり楽しくない	28	7.6
4 楽しくない	4	1.1
無回答	7	1.9
合計	369	100.0

Q18 あなたは、仕事上の悩みがありますか。（○は1つ）

	件数	%
1 ある	294	79.7
2 ない	69	18.7
無回答	6	1.6
合計	369	100.0

Q19 あなたの職場には、仕事上の相談を安心してできる人がいますか。（○は1つ）

	件数	%
1 いる	316	85.6
2 いない	48	13.0
無回答	5	1.4
合計	369	100.0

Q20 あなたは、困ったり悩んだりしたとき、誰かに相談したいと思いますか。(〇は1つ)

	件数	%
1 したいと思う	319	86.4
2 したいけどできない	23	6.2
3 したいと思わない	22	6.0
無回答	5	1.4
合計	369	100.0

【「したいけどできない」理由】

- ・自分で解決したり、相談するほどの内容でもないと思っているから (他2件)
- ・周りも忙しい。悩みの共感を得難い
- ・面倒だから
- ・どう思われるのか不安である。
- ・人に甘えることができないから
- ・自分も上司も多忙なため
- ・時間がないのにと迷惑に思われたり、たかがそんなことでと思われそうだから
- ・相談内容が他人の耳に入るのが困る
- ・人と話すのが苦手、自分の思いを話すのが苦手
- ・愚痴になってしまいそうなので、悪口になってしまいそう
- ・小さいことや、具体的に決められる程度のことは、愚痴として話すことは出来るが、本当に悩んでいることは、なかなか話せず自分で決めなくてはとってしまうことが多い
- ・時間がない
- ・周りに伝わるから
- ・立場上できないこともある
- ・会社を辞めたいので職場の人には相談できない
- ・心から信頼できる人がいないから
- ・信用できる人がいない

【「したいと思わない」理由】

- ・相談しても解決しないため (他1件)
- ・基本は相談しないが、蓄積されたら相談する
- ・あまり思わない。結局やるのは自分だから
- ・説明が面倒くさい
- ・経験上、ただの愚痴になるから。時間が解決することも多い
- ・話を聞いてほしいとは思いますが、解決してほしいとは思わない
- ・話すと自分を責めてしまうから
- ・結局のところ決めるのは自分なので、自分で考え、自分で責任を持ってやる必要がある。相談はしない (他5件)
- ・話したいと思わないから
- ・解決することが難しいことなので
- ・全ての原因は自分の捉え方次第
- ・誰かに自分の悩みを相談することは大事なことでと理解はしているが、自分が信頼している相手でも悩みを相談する事は無い。相手からすると結局は他人事であり自分自身で解決をしたい。1人で解決することが難しい時はリフレッシュをすることで考え方を変更するなど工夫している

Q21 あなたは、困ったり悩んだりしたとき、相談するとしたら、誰に相談しますか。(あてはまるものすべてに〇)

	件数	%
1 夫・妻・パートナー	223	60.4
2 親	114	30.9
3 親・夫・妻・パートナー以外の家族	43	11.7
4 友人	238	64.5
5 職場の人	226	61.2
6 近所の人	6	1.6
7 相談機関	6	1.6
8 相談したいけどできない	3	0.8
9 その他	9	2.4
無回答	6	1.6

【7 相談機関】

- ・児相の担当者など
- ・カトリック教会神父
- ・同じ職場の人以外の保育士の友人、先輩
- ・職場のカウンセラーの方
- ・内容により考える

【8 相談したいけどできない】

- ・職場で紹介されるカウンセラーシステム
- ・医療機関
- ・相談する場所がわからない

【9 その他】

- ・親とも疎遠、友達も少なく、悩みを共感してもらいにくいから 妹 (他1件)
- ・自分の信頼できる人
- ・同業の先輩など
- ・相談内容が他人の耳に入るのが困る

Q22 あなたは、どのようなところなら相談しようと思いますか。自由に書いてください。

- ・秘密が確実に守られる機関 (他50件)
- ・話を否定せず、じっくり聞いてくれる所 (他48件)
- ・悩み事に対して的確にアドバイスを得られる所 (他20件)
- ・信用のおける人、機関 (他13件)
- ・親身になって話を聴いてくれる人や場 (他12件)

- ・自分のことを知ってくれている人がいる所（他9件）
- ・安心してお話しできる場所（他9件）
- ・場所、時間を気にせず、気軽に相談できる場所（他7件）
- ・匿名性がある場所（他7件）
- ・いかにも相談所というよりは、カフェのような気軽に立ち寄れるような雰囲気の間だと話しやすい（他5件）
- ・職場の同僚（他5件）
- ・専門的な知識や経験をもっている場所（他5件）
- ・インターネットなどを利用して気軽に相談できる場所（他4件）
- ・自分の悩みに具体的に答えてくれ、解決につながるような場所（他4件）
- ・無料の機関（他3件）
- ・電話のように顔が見えず、話をしっかり聞いてくれる場所（他3件）
- ・自分のことを知らなくて、ただ話を聞いてくれる人（他2件）
- ・顔見えない場所（他1件）
- ・力になってくれる場所
- ・24時間いつでも話を聞いてもらえるところがあるといいですが、なかなか難しいですね
- ・ものの見方が一面的でない
- ・周囲にわからないように(気づかれない)できる場所
- ・いろいろな選択肢を出していただける場所
- ・人権を遵守できている。中立で特定の人物や機関への忖度をしない場所
- ・すぐに動いてくれる組織
- ・専門的な知識だけではなく、いろいろな事を平等にとらえ視野を広くもった人達がいる所。いろいろな観点から物事をとらえることができる人材がいる所
- ・学校という職場の様子がわかっている人
- ・相談窓口による。最初に対応してくれた人の印象や、コールしてもつながらない等…やっとの思いで相談したのに、力をそがれてしまう
- ・職員がTELで相談できる場所。相談というよりも内部告発できる場所
- ・つながりやすい場所。相談したらあまり時間をおかずに対応してくれる場所
- ・物事を、正しく、判断できる人
- ・とにかく時間がないので、仕事の休憩時間に相談しに行ける、敷居の高くないような場所
- ・話を聞いてくれて、自分が間違っていることは、しっかりと伝えてくださる方。また、成長の目標地点をしっかりととらえている方
- ・話を聞くだけでなく、外部からメスを入れてくれるような機関
- ・慣れた人がいる場所
- ・身近な自分の状況を理解してくれる所
- ・ゆっくり相談の時間と環境が整っている場所
- ・予約せずに相談したい時に相談できる場所
- ・対応策を一緒に考えてくれる場所
- ・感情や心情を抜きにして、判断ができる機関があると良いと考える
- ・教育業界のことをよく知っている場所
- ・緊急度合いで異なるがチャットでの相談から電話などまずは顔を合わせることがないような場所
- ・具体的にアクションに移してくれ、かつ相談することにより現在の職場で働きにくくならない場所
- ・仕事が終わる18時以降でも対応可能な機関
- ・時間がかからない所 ・事後も声をかけてくれること
- ・自分の身分を聞かずに聞いてくれる場所
- ・職場の人がいない場所
- ・正論ばかり言っこない人
- ・相談したあとで、嫌な思いが残らない場所
- ・時間を急かされたりしない場所
- ・同じ悩みを抱えている人と共有したり、気持ちが楽になれるような場所
- ・話しやすい人、雰囲気
- ・自宅近くの無料（もしくは少額の）のカウンセリング
- ・定期的にカウンセリングを受けたい
- ・相談者本人に目を向けてくれる、人間対人間としての基本的な姿勢で臨んでくれる職員が多い場所
- ・具体的に動いてくれる場所。話した内容に対して調査をしてくれる場所

Q23 子どもが安心して、自分らしく生き、社会に参加しながら成長していくためには、どんなことが大切だと思いますか。自由に書いてください。

- ・大人がいつも優しく見守ってくれる環境が大切（他20件）

- ・一人ひとりを認め、受け入れる（他 20 件）
- ・自己肯定感を高めるような声掛け、対応（他 20 件）
- ・家庭環境が適切なものであること（他 17 件）
- ・いろいろなことに興味を持って、いろいろな体験などをたくさんすること（他 15 件）
- ・挑戦をする機会が多く与えられる環境（他 12 件）
- ・ありのままの姿でいれる環境が整ってること（他 12 件）
- ・子供が自分で考えて自分のことを決める機会が大切だと思う。自分のことだけでなく、周りのことを考え、自分で選択することで、責任なども学んでいけると思う（他 10 件）
- ・社会全体で子どもを育てる姿勢、環境整備（他 10 件）
- ・環境などのハード面も当然ではあるが、安定した心の居場所があることは成長するうえで大切だと思う（他 10 件）
- ・愛情と言っても甘やかす、何でも言うことを聞くのではなくルールを守ることや、モラルを教えることも必要だと思います（他 9 件）
- ・まず大人が幸せに生活することができていること（他 9 件）
- ・自分の気持ちを聞いてもらえる人や場所がきちんと確保されていること（他 9 件）
- ・大人に余裕があることが重要。（子どもに関わる全ての大人）（他 9 件）
- ・相手の思いやる気持ちを持つこと。子ども大人関係なく、相手を尊重する（他 9 件）
- ・子どもが行うことをしっかりとほめてあげることが大切だと思う（他 8 件）
- ・子どもの意見が主張できる場があること（他 8 件）
- ・のびのびと、否定されることなく暮らしていくことが大切だと感じる（他 8 件）
- ・安心できる大人・友達・環境の場が大切（他 7 件）
- ・学校教育の見直し。みんな一緒になくても大丈夫！という雰囲気を出していきたい。がちがちに学力向上のみを求めるのではなく、自分で決断し、ゆっくり模索しながら、生きていくことが素敵という社会であることが大切だと考える（他 6 件）
- ・心に寄り添う優しい大人が増えることだと思います（他 6 件）
- ・相談できる大人が近くにいること（他 6 件）
- ・子どもの気持ちを受けとめてくれ、安心してすごすことができ、自分は認められていると感ずることができるとが大切（他 6 件）
- ・子どもが安心できる居場所を作る（他 5 件）
- ・ベースになる社会の安定。またそこに携わる職に就く人の給与や勤務系態の保証。ボランティアではなく、働く人の善意に頼るような日本の教育システムを変えること。外国に学ぶこと。迅速な変革（他 5 件）
- ・大人の意識を変えること（他 5 件）
- ・自分の考えを発信できたり、良さを発見できたりする機会を量的にも質的にも担保していくこと（他 4 件）
- ・まずは衣食住に困らない環境が最低限必要と思う（他 4 件）
- ・子どもも、一人の人として見ていく、大人側の意識（他 4 件）
- ・環境をととのえる（他 3 件）
- ・まずは大人が手本を見せることだと思います（他 3 件）
- ・親に愛されている実感、認められている実感（他 3 件）
- ・家庭や教育、ストレスを発散できる場所。環境が全てだと思う（他 3 件）
- ・大人がもっと子どもを支援することに真剣になるべきだ（他 3 件）
- ・子どもに対して優しくすぎる社会なので、程良く、子どもに対して強めの指導も時には必要だと感じる。怒られた事がない若者が増えてきている中で、すぐにキレてしまう若者がニュースでもやっているの、アメとムチは必要なのではと思う ・社会的に生きるルールを教えつつも、見守り（他 3 件）
- ・周囲の大人が、子どもの権利に関する条例などを正しく理解していること。この条例を知らない人も沢山いる。啓発活動も必要。出生時、保育園入園時、就学時など、節目で行政が発信していくべき（他 3 件）
- ・子どもたちを大切にしている、ということが分かるように大人が示していくこと（他 2 件）
- ・自分の気持ちを言葉で表現できる力の構築が大切（他 2 件）
- ・教員の人数を増やす（他 2 件）
- ・子どもにも、周りの大人にも時間的な余裕が必要だと思います。今は保護者も、教員も子どもたちに十分に関われる時間と心の余裕が持てていないと思う。子ども自身も塾や習い事、保護者からの勉強へのプレッシャーなどで余裕がない（他 1 件）
- ・機関ごとの連携強化（他 1 件）
- ・いろいろな人とかかわること（他 1 件）
- ・人生の主体は自分だと理解する（他 1 件）
- ・信頼できる大人がまわりにいること（他 1 件）
- ・人権意識を大人も子どもも、もつことだとも思う（他 1 件）
- ・同じように成長できる環境（他 1 件）
- ・安心して甘えたりのびのびできる大人が必要であり、大切だと思う（他 1 件）
- ・親とのコミュニケーションが足りない家庭が多いと感じる（他 1 件）

- ・子どものマナー違反や悪い行いをその場で注意するのではなく、学校に伝えて来る方が多い様に感じます。間違いながら成長していく子どもをもっと温かく見守ってほしいです(しかっていただいてよいので)
- ・向き合おうとする意識の向上
- ・自分で選んで、決めて、それに責任を持つということを小さい頃から積み重ねることが大切だと思う
- ・周囲の大人の知識の向上
- ・まわりの大人が変化に気づくことがまず大切だと思います
- ・大人にたよっていい、たすけを求めていると思えるように、伝えたり、場を作ったりする
- ・大人の関わり方
- ・人間関係、コミュニケーションの力
- ・当園に関しては、不適切保育と思われる2名、ただ当園の勤続年数が長いだけで園長さえもヘコヘコしている職員を排除しなければ平和な保育は訪れない。子ども達を守るには、他の職員が盾になるしかない
- ・経済的安定
- ・子供が「生きづらい」と思ったときに、安心して助けを求められる機関があり、かつそこに子供が相談しやすい風土を作っていくことが大切
- ・まずは大人がまわりと協力しながら手を取り合いながら生活すること
- ・自主性を育てることが大切だと思う
- ・まずは「親」が、考え方を改めないとなかなか・・・時代的なものなのかもしれませんが「親とは・・・」という考えよりも「自分」のことを優先している傾向にあるように感じる
- ・大人の世界で権利が守られていること
- ・子どもたちと関かわる大人やいろいろな環境を整える必要があるととても感じます
- ・子どもに強制させたりせずやりたいことができるようにすることが大切だと思う
- ・金銭的援助。必要最低限、やりたいことができる経済状況であるように、子育て世代に援助が必要だと思う
- ・子どもが参加できるようなイベントなど、いろいろな経験を積むことが大切
- ・生活や遊びの中で自然にふれ、友だちと関わり一緒に過ごし優しい気持ちや思いやる心が育つと思います
- ・古い考えをもつ大人が間違えていると言える社会
- ・子どもだけではなく親や先生など子育てに携わる大人も安心できる環境（社会の子育てへの理解、職員配置や給与体制も含む）があること
- ・社会全体が子どもの権利を意識していく事が大切だと思います
- ・自由な時間
- ・具体的な自治体や政府の施策
- ・小さい頃から競争にさらされないことも大切だと思う
- ・時間に追われず自分のことに没頭できること
- ・多様性を尊重していくこと
- ・地域の人々と交流できる機会を与えること
- ・なかなかなくなならない、いじめなどのために登校できない児童が自宅や学校ではない場で学べる場を確保する事が大切ではないかと思う。まあ、その保護者も『絶対学校に通わせる』という考えから柔軟に学校以外の場に通う、学ぶことを受け入れられる世の中の雰囲気が大切だと思う
- ・日本も外国人などいろいろなルーツを持った方が多くなっている。子どもたちも将来国際社会の中で生きていかなければならないので、同調圧力ではなく、人によって個性があること、考え方や捉え方があること、そして認め合うことを伝え続けることが大切である
- ・昔のような地域の口うるさい人の存在。そしてそれを受け入れる理解ある地域性。この人になら安心して話せる、そばに居られると思われる自身の幸福度と人間性の向上
- ・支援を必要とした時に使うことができる
- ・大人が、自分を理解し、子どもをひとりの人として育てていく意識を高めること。大人が親であることの意味を考えること。保護者教育(学び)の機会が増えるといいと思う
- ・大人が子供に寛容であること。(適当、いい加減等ということではなく)。大人がルールを守ること
- ・思いやりを持って接する中、生活の中で考える力を伸ばせるような機会を与えることが重要。そして、様々な機会を通し、満足感や達成感に繋がることで一步一步成長していくことと思います
- ・保護者の理解
- ・親の思いが一番、他人には介入できないことが多々ある。親次第で成長しないと現状が分からない子どもだけでは社会参加も難しい
- ・カウンセリングマインドをもつこと。相談されたことに対して必ずかたちとして提示すること
- ・家族、友だち、所属の場(学校、部活、習い事)の場で安心してすごせること見守り認めてくれる人がいること
- ・子どもが自由に(約束やマナーも守りながら)、自発的に活動ができる場。信頼できる友だち、大人がそばにいる場
- ・子どもとの対話、見守り、つながり、孤立しない家族、親への支援(相談)、居場所、学習支援、フリースクール
- ・地域の治安の回復
- ・自分をしっかり知って、進みたい道がどの道なのかをしっかりと考えられるそのために必要な力を知り、身につけられるような環境をつくりだす

- ・子ども同士の関わりを中心にした、安心できる人間関係が大切だと考えます
- ・すべての人が子どもの周りの出来事について、子どもの権利の視点からじっくり考え、吟味すること
- ・それを考えていくこと
- ・周りの大人が子どもを大切に。大人も自分自身を大切にできる社会
- ・課題ばかりに着目せずにその子自身が将来自分の得意な事、出来ることを自覚出来るように一人ひとりの光るものを見つけ伸ばしてあげることが大切
- ・周りの大人の適切な環境や対応、接し方、行動 ・気合根性義理人情
- ・乳幼児期の育ちはその後に大きく影響すると思う。今の保育園の環境は不十分。改善してほしい。保護者の労働環境も関係ある。さみしい思いを抱えて成長した子は、自分らしく生きづらくなることもある。小学校、中学校の環境も改善してほしい。今でも部活顧問や担任による圧力はある。保育園で自主性を大事にしてもその後につながっていない。幼保小の連携不足・・・教師の忙しさも原因。形だけの権利にならないよう、まわりの大人、親、教師が意識していかななくてはならない
- ・周りの大人がサポートをすること
- ・尊重されること
- ・子どもたちが大人になった時の社会的な立場の確立。働く意味。働く環境
- ・集団生活を大事にするのは遊びの部分であり、生活面は個々の特性に応じて自由にすべき
- ・多くの人が周りの人を受け入れ、多様な相手を認めて受け入れること
- ・保育園は保護者を支援する場であるが、まずはこどもが安心して過ごせる生活の場であることも大切。だが、長時間保育や誰でも通園制度など、必要だと思う反面、こどもにとってこの環境はどうなのだろうかと感じることもある。保護者支援とこどもの安心安全との兼ね合いが大切
- ・乳児の頃から無条件にたいせつにされること
- ・名声の高い学校ということではなく、それぞれの育ちの段階で出会う家族以外の大人、どのような大人と出会えるかも要と思います。と同時に自分自身が素でいられる場所があることが大切と思います。人的物的両環境の必要性。
- ・親からの愛情、仲間との絆、取り巻く環境、制度の充実など、多方面から安心を得ることが自分らしく生きることにつながるのでないかと思っています
- ・20人ぐらいの学級になれば、もっと細やかに目が届き、ほとんどの問題は解消されていくはずですが（他1件）
- ・差別を受けないような社会を作ることが大切だと思う。そのために、どの子どももそれぞれに合った教育を受けられるべきである。さらに、受け入れられる体制が必要
- ・安心して学べる環境などが大切だと思います
- ・実効性のある取り組みをスピーディに進めていけるようになると良いと考えます
- ・偏見や差別を自覚出来る制度
- ・子どもの考えや意志を尊重してもらえ、実現に向けて後押ししてもらえたり、励ましてもらえる。危険が伴う場合には、危険であることを知らせてくれる、または、すぐに対応できる状態で見守ってもらえるなど、社会性の育みにも関わってもらえる
- ・子育て環境の見直し、未来を担う人材(教師含めて)の育成人数だけそろえればOK という訳ではない子ども主体でありつつも支える大人を育てないと大変なことになるだろう
- ・子どもたちのコミュニティーの場があって、自由に意見交換できる場所を用意してあげること
- ・主張された意見が形になること、形になるのが難しい場合は子どもに対して理由が説明されるべきだと思う
- ・SOSを一人ではなくて多くの大人がキャッチできるようにしておくことが大切であると思う
- ・子どもが自分にはどのような権利があり、尊重されるべきなのかを知ること、自分の権利も相手の権利も守るためにはどうしたらよいかを考えること
- ・見守り支えたいと心から思える大人が大勢いて、力を合わせて様々な困難に立ち向かう事
- ・集団生活の中で、見守ることも大事だが支援したり子ども同士の関わりの中で仲介が必要だと感じた時に間に入り、子どもの気持ちを受け止め守ることで安心できると思う
- ・この地を愛し、自分に誇りがもてること
- ・自分と違う人や事を嫌悪せず、興味を持って関わりを待つ心を育ててほしい
- ・周囲の理解
- ・家庭を支えるサービスがしっかりしていることが大切だとおもいます
- ・一緒にいて楽しい人を探す
- ・子どもへのケアも大事だが保護者(大人)へのケアが必要と感じたとき、学校現場だけではうまくいかない。対大人へのケアについても、社会全体で取り組む必要があると思う
- ・家庭環境の安定や経済的に余裕があることは大切なことだと考えます。大人が頑張っていかなければならないことがあるということです。学校でのあらゆる教育活動や地域の活動、学校外での文化・スポーツなどの活動、日常の遊び等子どもを取り巻く様々な環境があまりストレスのかからないものにできるればとは思いますが、これも大人しいかなと思います
- ・塾や習い事だけでなく、体験活動を家族や友達と共有する時間が大切
- ・中学校の校則や部活動のあり方、子どもとの接し方など古い価値観に縛られている社会全体が、その価値観を刷新していくことが大切だと感じます

- ・ミスをしてでも次に良い結果になるよう受け止め導いてもらえること
- ・いろんな生物やいろんな年代の人と交流し、自分が活躍できる場所を見つけてほしい
- ・お互いに話し合うこと
- ・助けてくれる人が周りにいることを伝えること
- ・子どもだけでなく、子どもと関わる親や保育者などの心身の健康が守られること
- ・また学校生活でも、学習に前向きでなくても、先生や友人を通して集団生活を行い、色々なことに取り組むことも必要だと感じる。安心できる、場所(家庭)があれば、より社会に参加し、頑張ろうという意欲がいずれ出でくると思う
- ・大人が、子どもをひとりの人間として受け入れ、その権利を守っていくこと
- ・常識的なことを身につけさせ、集団の中で成長できる様にしていくこと
- ・子どもが自己肯定感を持ち、自分の力で物事を決めることが出来るようになるまでは、両親の存在は大きい。ゆとりを持ち子どもとの時間を過ごすことが出来る為には就労を小学3~4年生までは、収入のレベルを落とすことなく、短時間勤ムを(8:30~15:00/16:00)実施し、子どもに充分かかわってもらえる時間を持つ様にする
- ・認め合える仲間がいること、努力や協力した喜びを味わえること
- ・自己理解
- ・将来に希望をもって今生きられる社会であること。素敵な大人がたくさんいて見守っている。自己実現ができる社会。自分が人のために役に立っていると実感。毎日が充実していること
- ・子ども自身の力
- ・できないことでもやってみたいと思える気持ち。相手の気持ちを汲み取り、思いやりを持つこと

『あなた自身のこと』についてお聞きします。

Q24 あなたの令和6（2024）年4月2日時点での年齢をおしえてください。

	件数	%
10 歳代	0	0.0
20 歳代	76	20.6
30 歳代	69	18.7
40 歳代	103	27.9
50 歳代	82	22.2
60 歳代	27	7.3
70 歳代	2	0.5
無回答	10	2.7
合計	369	100.0

Q25 あなたの性別を教えてください。（〇は1つ）

	件数	%
1 男性	125	33.9
2 女性	225	61.0
3 選べない・答えたくない	15	4.1
無回答	4	1.1
合計	369	100.0

Q26 あなたの所属を教えてください。（〇は1つ）

	件数	%
1 小学校	94	25.5
2 中学校	40	10.8
3 高校	26	7.0
4 その他学校	21	5.7
5 保育園	98	26.6
6 こども文化センター	35	9.5
7 保育園以外の児童福祉施設	28	7.6
8 その他	22	6.0
無回答	5	1.4
合計	369	100.0

【その他】

- ・児童相談所（他5件）
- ・地域子育て支援センター（他1件）
- ・わくわくプラザ（他1件）
- ・ゆうゆう広場（他1件）
- ・療育センター
- ・総合教育センター
- ・さー
- ・児童家庭支援センター
- ・児童養護施設
- ・放課後等デイサービス
- ・川崎市子ども夢パーク
- ・認定こども園

	件数	%
学校関係	181	49.1
施設関係	183	49.6
無回答	5	1.4
合計	369	100.0

Q27 あなたの、令和6（2024）年4月1日での勤続年数を教えてください。（〇は1つ）

	件数	%
1 1年未満	33	8.9
2 1年以上5年未満	75	20.3
3 5年以上10年未満	50	13.6
4 10年以上20年未満	115	31.2
5 20年以上30年未満	56	15.2
6 30年以上	35	9.5
無回答	5	1.4
合計	369	100.0